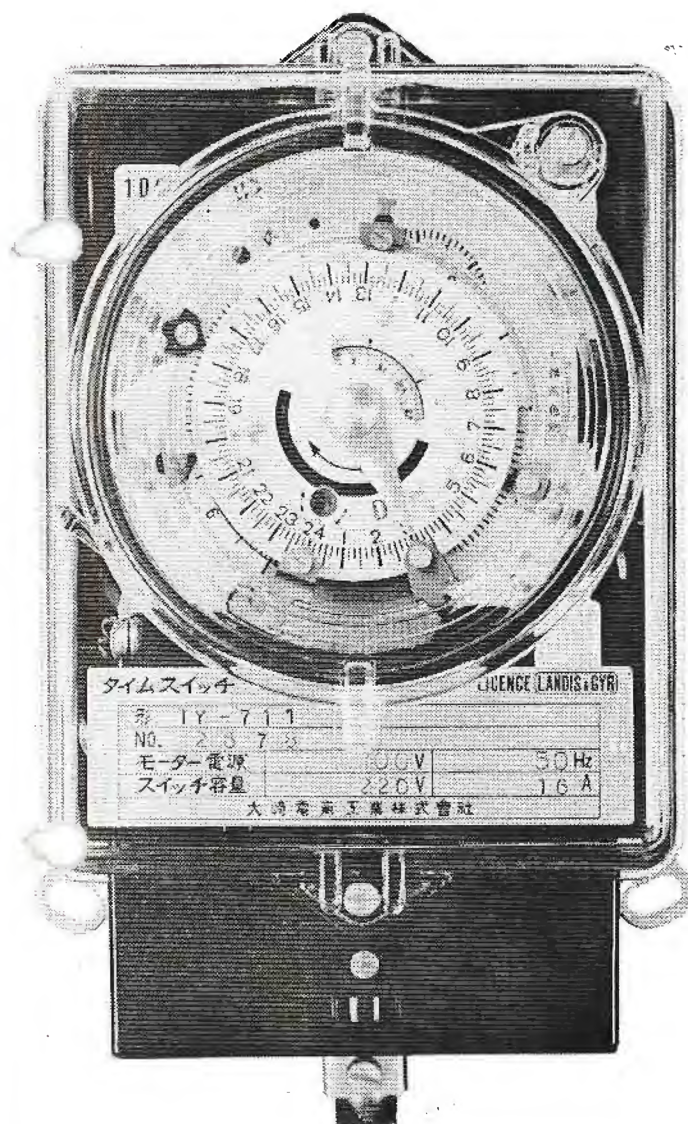
Osaki タイムスイッチ

TYシリーズ

24時間では足りないあなたに１日＝72時間



大崎タイムスイッチならそれが可能です。毎日、毎週、毎月、定時刻に自動的にスイッチを〈入・切〉するあらゆる設備機器や年間の日没・日出時刻に応じ、自動的に照明を〈入・切〉する場合に最適です。



理事長登壇 ⑪

山口県実業団連盟理事長

西本　利治

（武田薬品光工場）



「ハンドボール」「ハンドボール」「……」と頭をかすめるような現在になったのも考えてみれば、ちょっとした中学時代の経験が縁で病みつきになったと思えるのです。

十数年前、中学生の時「ハンドボール」という競技を初めて知ったのです。私は丁度、野球部に所属していたのですが、即席チームを編成し、県体に出場するというので、運動部選手が起用され、ランニングキャッチ、シュートと、基礎的なことばかりやったのです、今考えれば、中学時代は、無意欲で、ボールをつかみ、力一杯シュートすることで夢中となり、テクニックを得ようなど、とても考えられなかったように思えます。

本格的に「ハンドボール」に取り組み、熱中したのは、社会人となり、会社（武田薬品工業株式会社光工場）に、同好会が出来た時です。

自から入部を願い出て、雨の日、冬の寒い時、小雪のパラつく時、創設以来、ハンドボール部の成長と、自己技術研磨の思いで熱中し頑張っていましたが、前部長の転勤にともない、二代目「部長」の指命を受け、更に「山口県実業団ハンドボール連盟」の結成となり、理事長の大役を、おおせつかり別の角度から「ハンドボール」を勉強することさできるようになったのです。このように、ちょっとした縁が今では、私にとって切離せられなく、また未練の残る「ハンドボール」になったのです。

さて、「県実連」は、昭和四十六年六月に、山口県にて全国大会（トーナメント大会）が開催されることを機会に結成されたのです。当時は、六社（三井石油、山陽国策パルプ、武田薬品、日本ゼオン、出光徳山、東洋曹達）でしたが、翌年四社（笠戸ドック、サン・アロー化学、山口マツダ、自衛隊・小月）、そして今年二社（自衛隊・岩国、興亜石油）と年々増加し、「県実連」としては非常に喜ばしいことだと思っています。

着実にチーム数が成長しているのは、「ハンドボール」が、企業の、余暇活動として浸とろしていると思うのです。一方では、チーム数の増す割には、活動力に乏しく「県実連」自体の存在価値が〝うすれているのではないか〟、と心配もしているのですが―。

発足間もないので要領を得ず、活動力を低下させているように思うのですが、本年より事務局の業務を、ほほ自主的に運営することができました。更に来季は独自の活動を積極的にすべきなのです。独自の活動が不充分なのは、「企業体」でのクラブ活動であり、「労働が先行する」ということで制約されてしまうのだと考えるのです。「県実連」に加盟しているチームで、ハンドボールを「社技」？にしている企業はなく、従業員の余暇活動のハンドボール部というケースが全てで、交替勤務、残業等の労働が先行し、充分な練習ができず、レベルはグッと低くなります。かつ優秀な新人が入社しても、二〜三年すると、企業のもつ運動方針と、週休二日制、レジャー・ブームとで、気力を失ない姿を消して行くということもあり残念です。そこで「県実連」チームのレベル、アップを計るために是非次の様なことを試みてみたいのです。㈠企画、調査委員会（仮称）を編成し、実連独自の大会を計画し運営の方向に進めたい。㈡実連チームのレベル低下は、労働先行の為、練習不足と思えるので試合数を増すことでカバーする。即山口県実連リーグ戦を、一、二部に分け、年度初めに、日程、場所を決定し実施する。そしてPRの為にも特定地区だけでなく、各地区で開催してゆきたいのです。このことは協会にも当てはまることだと考えるのです。ハンドボールの盛んなのは特定の地区（市）のみです。そこで大会を実施するのは容易ですが、全くハンドボールに縁のない地区では、問題も多いのですが「石の上にも三年」のつもりで、PRのために「ハンドボール大会」を開催すれば、ハンドボール人口も増え、普及になるのではないかと希望をかけています。

先輩諸氏に対し恐縮ですが私の所感の一端とします。

本欄は、直接日本協会と結ばれていないローカルな組織団体の理事長に登場していただきます。ここにもこんな理事長が……、読者の推せんを歓迎いたします。編集部に御連絡下さい。

「ハンドボール」
12月号（第115号）目次

【表紙写真】世界女子選手権日本代表チーム。前列右から占佐原、牧野、小原、米、三毛、垂水、島田、後列右から和田、蔵田、山下、鳥居、高野の12選手（11月17日・代々木公園で。撮影・山田真市）

少年部門、男女で参加数を〝回転〟

～教員は存続、成年女は狭き門に～

国体（昭和50年以降）の模様替え決まる

明後年（昭和50年）以降の国民体育大会ハンドボール競技の模様替えが正式に決まった——日本体協の国体開催基準要項改訂にともなう日本協会の審議は、24理事が出席した全国理事会（11月11日）で3時間近くにわたって行なわれ、大要次のように議決、同日、全国評議員会の承認をうけた。

①日本体協の指示にもとずき男女とも19歳を境に「成年」「少年」に二大分割、ハンドボール競技は計80チームの参加で行なう。（注、日体協案は成年男32、同女16、少年男16、同女16）

②成年男子の部に、教員の部を設ける。

③男女とも学生（学連登録の有無を問わず「学生」という身分を有するものすべて）の参加は認めない

④1チームの構成は監督1、選手に（GK2、FP10）とする。

⑤少年の男女は、その参加都道府県数を「18」「10」とし、年度毎に、その数を回転させる。

⑥成年の種別参加都道府県数は成年男子32、成年女子10、教員10とし、年度毎の回転は行なわない。

⑦次の各項は採りあげない。

イ、成年男女をさらに年令別に細分すること

ロ、実連登録者の参加制限

ハ、ブロックの編成替え

⑧今回の決定は、すべて半恒久的な姿勢とするが、時流などを考りょし、4〜5年を一周期とし、再検討、手なおしの機会を設けることもある。

⑨競技は6面のコートを使って日程を消化するが、晴・雨天を問わず2種別は屋内で行なう。

⑩昭和49年の茨城国体（注・ハンドボールは水海道市）は、すべて千葉国体（48年）と同じ要綱で行う。

延々の議論に結着

新方針決定まで

この日の会議が約3時間、前日の常務理事会が約2時間、というよりも28年間の議論が、ようやく、新しい方向を見つけだしたといってよいだろう。

19歳を境に（例えば昭和50年の三重国体の成年の部参加者は昭和32年4月1日以前出生の者、同少年の部は昭和32年4月2日以降出生の者、ただし中学生以下は参加できない）成少年に分けるとする日本体協の基本方針については、すでに本誌などでも再三にわたって報道されていたため、特に問題はなかった。

最大の論点は、成年の部に、教員の部、年令別細分を採用するかだった。

女子については、両システムともその要なしということで、あっさりまとまったが、男子は大激論。常務理事会では教員よりも年令別（19〜34歳クラスと35歳以上クラス）の新採用を推す声が多かったが〝教員存続〟の意見も根強く、結論をもちこした。

全国理事会でも、はたして意見百出となったが、年令別は見送りのムードが支配的となり、焦点は、教員の部を存続させるか、解消させるかに集った。教員の部を設けるがためのプラス、マイナスについては各理事の発言は、すべて異なり、しかもすべてに説得力があったため、収拾にとまどったが、意見の出つくしたところで採決、教員の部設置に賛成者17名が挙手、存続が決まった。

成年の部は男子32チーム

次にもめたのは、80チームの配分である。現行72から8チーム増をみたのは、縮少傾向にある現況下にあって保坂周助副会長（日体協国体委員長）、荒川清美理事長の努力に負うところが大きいが、常務理事会は、これまでの一般男女、高校男女、教員の数を一部手なおしするだけでは不足という考えから全面的検討を行ない「少年30、成年50」を案としてもちこんだ。

これに対し、理事会では一部の理事から、社会人大会の色彩を強めるため、「少年30」に異論が出るなどしたが、結局、ブロック数との関連から「少年28、成年52」に修正することでまとまり、さらに少年28を18、10とし、年度毎にその数を入れ替えるいわゆるローテート・システムの採用という新案をも決めた。

難題は、成年52を男、女、教員にどう割りふるかにあったが、荒川理事長から「日本体協は教員、青年（注・ハンドボールは無関係）などは、これまでの数で行なうのが望ましいとしている」との説明があり、まず教員10が決まった。

残り42については「男32、女10」「男30、女12」「男24、女18」の3案が出され、少年同様ローテート・システムを採ることの提案もあり再び議論が白熱した。

特に、女子10〜12については、日本協会の女子に対する姿勢にも論が及び、意見の対立する場面もしばしばだった。

平行線のまま時間がすぎ、採決となり、最初にローテートについての採決（挙手）を行ない、賛成……9名、反対……12名、（未投票3名）で否決。

つづいて、配分数についての採決（挙手）が行なわれ、

「男30、女12」……4名

「男32、女10」……12名

「男24、女18」……2名

で「男32、女10」が採択された。

この結果、成年に関しては、男子が現行の一般との比で2増、女子が2減、教員が現状維持となった。（未投票6名）

女子の2減については、現行の一般女子（12）が、各ブロック各1、関東、東海のみ各2という変則的な数字で、しかも関東、東海のプラス1は、かつて実業団の実力を算出基準にした、という背景があったため、最近では、再検討を望む声が高まり、この様にその空気が大きく張り出したとみてよいだろう。

女子学生も参加認めず

理事会では、このあと具体的な問題に入り、まず「学生の参加」について討議、シャットアウトしている男子については、現状のままでよいという声が圧倒的で、採決（挙手）の結果も、

現状のままで可……13名
改訂の必要あり……4名
（未投票7名）

逆に、女子については、小さな議論のあと、改訂の必要ありとする意見が、「学生が居なければチーム編成がまだ難しい」「全国に女子の大学チームは16にすぎず、ハンドボール部をもたぬ大学へ進んだ高校OGのために……」といった現状維持論を上廻り、採決（挙手）の結果も、

女子の参加を認めない……12名
現状のまま……6名
（未投票6名）

となって、学生は、男女とも国体から完全に姿を消すこととなった。

昭和50年以降の国体種別配分数

	成年男子	成年女子	教員(男)	少年男子		少年女子	
				偶数回	奇数回	偶数回	奇数回
北海道	1	1	1	1	1	1	1
東　北	4	1	1	2	1	1	2
関　東	6	1	1	2	1	1	2
北信越	3	1	1	2	1	1	2
東　海	3	1	1	2	1	1	2
近　畿	5	1	1	2	1	1	2
中　国	3	1	1	2	1	1	2
四　国	2	1	1	2	1	1	2
九　州	4	1	1	2	1	1	2
開催地	1	1	1	1	1	1	1
計	32	10	10	計28を回転			

〝実連の制限〟見送り

みかたによっては、最大の論点と思われた「実連登録者及び実業団単一チームの参加制限」は常務理事会で話し合われ、『国体は現時点ではいぜんとして、体育・健康的見地よりも競技力中心の場である』『有力選手を辞退させては内容が低下し、地元民に対して競技の本質を充分に理解させ得ない』『職種によって大会参加を制限させるべきではない』などの意見が大勢を占め、当分の間は、現行どおり進むこととした。

全国理事会では、『有力実業団があるがためにクラブ(特にOG)が育たない』というこれまでどおりの反論はあったものの、積極的に「辞退・制限」を求める発言はなく、また、全国の理事長アンケート（本誌前号既報）で回答を寄せた21氏のうち、この点を望んだものは9氏にとどまった、などの参考資料もあり、新しいシステムは決議されずに終った。

成年男子　中国3、九州4に

ブロック別の配分数（別表）は参加都道府県10の教員、成年女子などは各ブロック、開催地の均等割りで解決、少年18は北海道を除く各ブロック2、北海道、開催地各1ですんなり。

成年男子はこれまでの一般男子(30)の配分をそのまま動かさず、増加した2について検討、理事長提案の中国、九州に各1増を満場一致で決めた。

このほか、チームの構成数がこれまでの選手11（ほかに監督1）という変則から正規の12に改正され、監督、選手の総計は一〇四〇名となり現行より一七六名の増となった。成年男女のユニホームのチーム名は、県名を大書し、企業名をつとめてさけるという昨秋11月の申し合せを確認、プログラムなどからチーム名をはずしてはどうかという提案が、実連選出の横地理事から出て注目された。

また、明年の茨城国体は、すべて、今年までの要綱にしたがって実施されることの確認があった。

したがって、女子学生も、明年は一般女子に一チーム3名まで参加できる。また、中国の一般男子代表数は2、九州は3のままである。

広範囲になる少年の部

新しい国体のアウトラインはできたものの問題点、未解決の課題は、まだかなりある。

特に、少年の部（男女）は、出席者のほとんどが「高校」という意識を強くもっていたようだが、新システム後は中学OB（OG）クラブでもよいし、中学出の実連選手の参加も当然認められ、A高校とB高校の有志が集ってCクラブといったものを編成することも可能なのだ。

この問題について、荒川理事長は、全国評議員会席上、三浦評議員（高体連）からの質問に「少年は19歳以下であれば〝高校〟〝高校生〟にとらわれない」と答えているが、思想統一をしておかないと混乱が生じそうで、2月に予定される次回の全国理事会で話し合われよう。

少年の部に学生が出場することは認められない。

また、ローテートを少年のみに適用し、成年、教員を素通りさせたことも反響が大きそうだ。

「今回の決定は半恒久的なもの」（田村会長）とはしているが、理事会では「一定の期間を経て、手なおしできる柔軟性をもたすべきだ」との申し合せを行なっている。

運営面では屋外4、屋内2の計6面で5日間80試合を消化するが、どの種別を屋内で行なうかは未決定。このほかに雨天会場は準備されなくなったため、第1、第2日あたりで荒天に見舞われた時、屋外の試合をどう処理するか大きな悩みとして残っている。

（杉山）

全日本男子 新しい人材で編成

荒川理事長が発言

日本協会は11月11日・東京渋谷の岸記念体育会館で全国理事会と臨時全国評議員会を開き、2頁詳報のとおり、昭和50年以降の国体について新方針を打ち出したほか男女の頂点強化について協議、また、来春2月の第9回世界男子選手権アジア予選への参加は、中東政情を慎重に見究めたうえ、再考慮するという結論をまとめた。

全国理事会 ▽11月11日午前10時～午後3時15分▽岸記念体育会館301会議室▽出席24理事（定数33名以内、現在数30名、成立、欠席6）

全国評議員会 ▽11月11日午後3時25分～4時25分▽岸記念体育会館301会議室▽出席3評議員（定数52名、委任状31＝計34、成立、無届18）

国体問題とともに、この日最大の焦点とみられた男女頂点強化については、荒川理事長が、基本方針として

①来春の世界選手権アジア予選の派遣選手は12名とし、モントリオール・オリンピック（昭51）へつながる若手を中心に編成、ミュンヘンオリンピック代表選手は年令、技術を問わず、よほどのことがない限り、再選出しない。

②コーチングスタッフは、監督の北川勇喜氏以外に1名をコーチとして派遣するが、ミュンヘンオリンピック代表選手のなかから適任者を選ぶ。

③コーチを複数とするかどうかは北川監督の意向を聞いてきめるが派遣コーチはあくまで②とする。

④女子の強化は、モントリオールまでに、もういちど世界選手権（編集部注・昭和50年下半期、ソビエトで開催予定）があるため、今冬の大会帰国後、改めて2年あるいは3年計画をねりたい。

⑤北川、井両ナショナルチーム監督の任期は、それぞれの世界選手権終了までとする。

というこれまでにない具体的な施策を公表、注目された。

不安多いイスラエル遠征

この発言に対して、監督に任期をおくことの是非が論議されたが荒川理事長は、ナショナルチームの基本思潮として「日本人の個性機能を活かした攻撃、守備」（本誌111号既報）を貫けば、監督が仮に交替しても、特に支障はないとの姿勢を改めて強調した。

ミュンヘン代表を再選出しないとする思い切った提案にも、賛否が述べられたが最終的には理事長提案を「原則」とすることにした。

ここで特に田村会長が発言を求め「ゆれ動く中東状勢下、日本チームをイスラエルへ派遣することの可否」が問いただされたため、議事は一転〝派遣問題〟となった。

各理事とも、選手団の安全に疑問をもつ一方、辞退―棄権への割り切りがつかず、ともかくも、あらゆる努力をはらって派遣の方針を貫き、事態急変の場合は緊急全国理事会の招集または文書によって年内に議決することで議論を打切った。しかし予測できぬ事態のなかへ、あえて選手を送りこむことに不安を抱くムードはかくせず、第9回世界男子選手権アジア予選の参加は、にわかに微妙な動きをともなうことになった。日本協会では12月の世界女子選手権時に渡欧する渡辺和美IHF理事（日本協会副会長）に、この問題に対するIHFの姿勢、イスラエルの動向の調査を依頼、同氏の帰国を待って、12月中旬、常務理事会を開く予定である。

選手は選考委員会で

ところで、男子代表選手については、「48年度ナショナル」としてイスラエルへの遠征の有無にかかわらず荒川理事長はリストアップしたい意向だったが、中止となった時の選手のショック、挫折感を少なくするため、選考の準備だけを進めて、名簿の発表は慎重を期すことにした。

具体的な選考方法は、全国理事会席上では特に明きらかにされなかったが、前日（11月10日）の月例常務理事会とこの日の全国評議員会では、荒川理事長から、

①選考委員会を編成し、全日本総合選手権（12月12～16日・東京体育館）後に12名、またはA12、B12の計24名を選考する。

②選考委員会は荒川理事長、北川監督、派遣コーチのほか、8月の月例常務理事会で選出した渡辺、安藤、光嶋の3常務理事により編成。

③コーチは派遣コーチを含めて荒川理事長、北川監督が話合う。

の三点が発表され、承認しており、この線で〝作業〟が進められるだろう。なお、今春編成した全日本ジュニアは、48年度ナショナルが選考された時点で追加、除籍手続きが行なわれる予定だ。

「47年度決算」を承認

財政問題では、全国評議員会で別掲の「昭和47年度決算」が承認されたほか、（注・全国理事会は6月24日大阪で承認）神田、嶋田両財務担当常務理事から「昭和48年度一般会計修正予算」の説明が

あり承認、つづいて「昭和49年度予算」については、神田、杉山両常務理事から、収入の頭打ちに比し、最近の物価高で、事務局系経費の支出がふくれあがっており、多少の繰りこし金を見込んでも加盟金、登録金を現行どおりとした場合、来年度事業は、現状維持も難しく、縮少の方向に退かざるを得ないという警鐘が鳴らされた。

なお、日本協会が自主運営した日本×ユーゴ第1戦（9月1日、東京体育館）の収支報告が行なわれ、二八七、四一八円の純益が明きらかとなった。

入場券の総売り上げは二、〇六五、七一〇円（前売り一、二二四、〇〇〇円、当日売り八五一、七一〇円）という記録的なもので、本誌の調べは、これはオリンピックアジア予選第3戦日本×韓国1回戦（46年11月18日、大阪市中央体育館）で大阪協会が売りあげた二、一九一、一〇〇円に次ぐ国内二番目の数字である。

代議員制度の検討へ

このほか、今回も全国評議員会の出席者が3名（宮川・茨城、三浦・高体連、田中・学連）と少なく34氏から委任状が寄せられたため改めて「代議員制度」の採用にともなう、日本協会規約の全面的検討がクローズアップされた。

評議員会の閉会を前に、田村会長、荒川理事長から、規約改正作業に着手する旨述べられ、宮川評議員らも了承した。日本協会では、総務企画部を中心に、来春までに草案を準備することになりそうである。

それにしても、最高議決機関の全国評議員会が、わずか3名の出席では、あまりにも淋しく、まして今回の場合は、午前中の理事会が、熱気にあふれたものであっただけに、よけい、その議場風景が寒々としてみえた。

代議員制度が、はたしてこの低迷を破る突破口となるかどうか、なりゆきを見守りたいが、評議員制度からみれば〝一歩後退〟の印象はまぬがれまい。

昭和47年度一般会計報告	
【収　入】	（単位円）
加盟金	890,000
登録金	4,976,000
オリンピック基金	1,094,000
用具検定料	2,165,000
審判審査料	406,800
ルールブック売あげ	654,820
体協補助金	2,500,000
機関誌購読料	4,071,850
機関誌広告料	1,142,400
協力金	1,888,790
雑収入	786,361
テキストブック売あげ	411,700
銀行利息	30,444
ダンケルセン戦	1,184,000
アジア予選	408,200
46年度体協補助金	920,000
計	23,530,365
【支　出】	
会議費	408,343
旅費・交通費	1,143,910
通信費	1,249,169
加盟費等分担金	452,514
機関誌等印刷費	4,464,586
競技力向上事業費	3,962,834
事務局費	30,505
消耗品費	385,343
備品費	142,531
人件費	1,951,800
雑費	277,855
大会参加料	97,048
中学大会等助成金	1,452,500
編集・取材費	122,900
補助金	125,000
予備費支出	866,245
雑損失	314,604
オリンピック庶務費	793,330
ダンケルセン戦	792,380
国際会議派遣費	240,000
借入金利息	94,255
46年度女子世界選手権	1,535,855
計	20,903,507
【一般会計当期剰余金】	2,626,858

編集委員リポート

全国会議を傍聴して

全国理事会・評議会を傍聴してみて、その運営方法や内容に疑問が感ぜられた。第一の点は、十分な時間が無いため納得のゆく討議がされていないことである。数時間のうちに報告事項が6件、協議事項が10件以上準備されていたが、これではとても満足な討議はできない。執行部の提案を、論議をにつめずに多数決で賛否をとるだけになっているのが現状である。また一般報告も、執行部からの一方的な〝報告〟だけで何ら問題点が解明されない印象をうけた。たとえばいろいろな問題を呼んだ西ドイツ・ラインハウゼンに関する報告も、常務理事会からの「反省点はあったが一応の成果をあげたとみたい」という報告だけで終わってしまった。ここら辺に問題がある……。

第二は、ブロック代表や加盟団体代表が自己の利益を主張するあまり、大乗的な見地からの意見が少ないことだ。日本のハンドボール界全体の発展をめざすような建設的な意見が出てもよいのではないか。全国評議員会に至っては、本誌でも再三言われてきているように、全く機能を失った機関である。出席者が3名では話にならない。できるだけ早く規約を改正してこれに代わる機関を作るべきだ。

（根城　泰）

デンマークチャンピオンの来日を検討

日本協会は11月11日の全国理事会で、来年度の事業日程について協議、本誌既報の東ドイツとの交流を、日本体協を通じて積極的に推進することに決めたほか、来日を要望しているデンマークの昨年度チャンピオン「I F・スタディオン・コペンハーゲン」（男子16名）を、来春4月招き、各地5～6試合行なうよう準備することになった。

また、恒例の日韓交流は学生（男女）、社会人（男）が来日、高校（男女）、社会人（女）が遠征の予定で、48年度事業として残っている第4回女子社会人は、来春3月韓国代表が来日することに内定した。

実業団サーキット本決り

また本誌既報の全日本実業団選手権のサーキット化については、再び泉理事（全日本実連理事長、日本発条）から報告をうけ、基本線を了解、実連側の日程が固まったあと、日本協会も、開催予定地へバックアップを要請することになり、開催経費の内訳、観客動員、審判員問題などを早急に話し合う。

なお、来年のサーキットに参加するのは大同製鋼（愛知）、本田技研鈴鹿（三重）、湧永薬品（大阪）、大崎電気（埼玉）、三景（東京）、三菱レイヨン大竹（広島）の6チームに決定、女子は長期サーキットを組まず、2～3回の短期シリーズを実連は検討中である。

昭和49年度全国大会

このほか全国理事会で発表された来年度の主な全国大会の日程は次のとおり。

学生関係は11月末に決まり、実連関係は選手権のサーキット化（別掲）にともない調整中。また、第3回全国中学生大会は8月、奈良県下で開催を交渉中である。

▽第6回全日本自衛隊選手権　5月30日～6月2日（予定、東京駒沢）

▽第25回全日本高校選手権　8月2～7日（北九州市・八幡桃園球技場）

▽第16回全日本教職員選手権　8月10～13日（四日市市）

▽第29回国体ハンドボール　10月21～25日（水海道市）

▽第26回全日本総合選手権　12月11～15日（東京体育館）

「全日本選抜」は解消へ

県案のNHK杯は、本誌既報のとおり、NHK側の意向をうけて来年度から国際試合に発展させ、9月に東ドイツ（男子または女子）を第1候補にして計画、東ドイツ側との交渉が進まぬ場合は、今冬の第5回世界女子選手権または来春の第9回世界男子選手権の上位国に来日を打診することも申し合せた。

これらの国際試合がすべて開催不可能の時は、もう1年、現行のシステムを延長して開けるようNHK側に交渉することも決めた。その場合は6月東京の予定。

なお、国際試合化が成った場合は「全日本選抜大会」は解消することが正式に決まった。

高校優秀選手決まる

日本協会は、恒例の全国高体連ハンドボール部推せんの今年度全日本高校優秀選手男女各15名を別表のように発表した。全国評議員会・理事会での承認をうけたもの。

男子の佐藤（中大附、全日本ジュニア）はただ一人2年連続の受賞。男子の由利（湯沢）、女子の伊藤（徳山）、広瀬（水海道二）の3選手は2年生、このほかの27選手はいずれも3年生。

全日本高校優秀選手

【男子】

	氏名	学校	身長(cm)
GK	佐々木　哲	湯　沢	173
	松下　信宏	中大附	172
	牧原　元則	名城附	172
FP	岡村　正則	小倉西	171
	奥野　勝久	小倉西	173
	中村　一郎	小倉西	179
	角本　司郎	小倉西	182
	鈴木　康正	名城附	176
	谷元　一己	名城附	166
	加納　英二	名城附	173
	由利　淳	湯　沢	180
	遠藤　裕二	聖光学工	180
	佐藤　恭政	中大附	179
	北野　勝也	生　駒	166
	三谷　俊二	初　芝	171

【女子】

	氏名	学校	身長(cm)
GK	安住　文子	涌　谷	163
	屋敷喜代美	小松市女	161
FP	山際　正美	小松市女	164
	貝野　妙子	小松市女	158
	左川　順子	徳　山	157
	伊藤　典子	徳　山	166
	宮田　芳子	大分東	151
	紀野奈々美	大分東	166
	穂積美保子	涌　谷	167
	広瀬美佐子	水海道二	161
	新井　弘子	小諸商	158
	別府　一子	蛻	158
	落合裕美子	四日市	155
	魚谷　政子	甲子園学	156
	緒方　良子	熊本市立	168

日本協会理事長だった

サトウ・ハチロー氏逝く

11月13日午後、東京で心臓発作のため亡くなられた詩人サトウ・ハチロー氏（本名、佐藤八郎、70才）は、日本ハンドボール協会の理事長をつとめられたことのあるかたで「佐藤理事長」を知る関係者はその逝去を惜しんでいる。

サトウ氏が、日本協会の理事長をつとめたのは、昭和21年から22年までの間、在任期間は3～6ケ月だった。同氏自身にハンドボール歴はなかったが、第2次大戦直後、復興を目指す日本協会は、第3代会長に式場隆三郎氏（故人）を推たい、同会長の縁故でサトウ氏が就かれたもの、という。

戦前の日本協会は専務理事制を採っており、理事長というポストはサトウ氏が「初代」であった。

ユーモア、明るさのなかに哀歓を織りこみ独得の作風で知られたサトウ氏はスポーツ好きで、特にプロ野球ファンとしては高名だったが、日本ハンドボール協会の理事長をつとめたことを知る人は極めて少ない。

心から御めい福を祈りたい。



日本協会参与・外山准二（東京協会副会長）氏の話　戦後ハンドボール協会の復活と同時に報道関係の有力者に後援願おうという動きが強まり、当時東京タイムスの社長であった式場さんを会長に迎え、その線で、サトウさんが理事長として推せんされた。復員したOBもまだ少なく、知名度のあるかただったのでお願いしたように記憶している。

第5回 世界女子選手権近づく

日本代表　元気に出発

第5回世界女子選手権が近づいて来た。12月8日から15日までユーゴの主要8都市で開かれるこの大会は，モントリオール・オリンピック（昭51）での女子初採用が，確実視されているとあって，かつてない高まりを示し，国際女子スポーツ界における「ハンドボールの位置」を確立するものと期待がかけられている。

参加国はエントリー19ケ国のうちＩＨＦ推せんの5ケ国と各大陸代表7ケ国の計12ケ国。（これまでの4回はいずれも9ケ国の参加で行なわれていた）

アジア代表として4度目の出場を果たす日本（田村団長，井監督ら15人）は，オランダ国際トーナメント（11月23〜26日）など前哨戦を経てユーゴ入りするため，すでに11月19日夜元気に羽田を飛び立っている。大会の展望と，選手団の抱負を特集した。

第5回世界女子選手権日程

▼予選リーグB組（ザビドビッチ・スポーツコート）
- 12月8日(土) 18.00 日本―ルーマニア
- 12月9日(日) 18.00 日本―ノルウェー
- 12月10日(月) 18.00 ルーマニア―ノルウェー

▽予選リーグA組（サラジエボ）
- ハンガリー―チエコ，チエコ―西ドイツ
- 西ドイツ―ハンガリー

▽予選リーグC組（シバニック）
- 東ドイツ―ソビエト，ソビエト―ポーランド
- ポーランド―東ドイツ

▽予選リーグD組（バラスデイン）
- ユーゴ―ギニア，ギニア―デンマーク
- デンマーク―ユーゴ（ギニア棄権の場合オランダ）

▼準決勝リーグ1組(ネゴテインスポーツホール)
- 12月12日(水) 18.00 A組1位―B組2位
- 19.00 B組1位―A組2位
- 12月13日(木) 18.00 B組2位―A組2位
- 19.00 B組1位―A組1位

▽準決勝リーグ2組（ザグレブ）
- C組1位―D組2位　D組1位―C組2位
- C組2位―D組2位　C組1位―D組1位

▼9〜12位決定リーグ(南ノビ市スポーツホール)
- 12月12日(水)
- 12月13日(木)
- 12月14日(金)
- 予選リーグ各組3位によるリーグ戦（試合時間未定）

▼順位決定戦（12月15日・土・ベオグラードスポーツパレス）
- 10.00 5，6位決定戦 1組3位―2組3位
- 11.00 3，4位決定戦 1組2位―2組2位
- 17.30 7，8位決定戦 1組4位―2組4位
- 18.30 決勝 1組1位―2組1位

日本、手の内知った相手

★大会を展望する★

大会は、出場12ケ国を3ケ国づつ4組に分けて予選リーグ、各組の上位2国が準決勝リーグに進む日本の目標は、この準決勝リーグへ勝ちあがることだ。

予選（B組）の相手はルーマニア、ノルウェー。まったく勝手のわからなかった前回とはちがい、今回は代表選手のうち7選手が連続出場。しかも、ルーマニア、ノルウェーとは対戦の経験があり、ノルウェーとは本番で12―12と引き分けた。勝利をじゅうぶん期待できる。ただ、今シーズンはノルウェーの力があがり、ルーマニアがやや低調という情報で、いささか的がしぼりにくい。

その点では、オランダ国際トーナメントの相手が、西ドイツからノルウェーに代ったのは好都合である。こちらの手の内もさらけだしたことになるが、本番での対戦までに時間もあり、対策をたてられよう。2点差ながら勝った自信も大きい。ルーマニアの不振は、一説にはモントリオールを目指して、メンバーをすべて若手に切り替えたからともいわれるが、はたしてどうか。

井監督は「今季の成績をそのまままうのみにはできない」と警戒。

今夏7月のユーゴ国際でノルウェーとルーマニアは対戦しており16―12でノルウェーが勝っているが東欧諸国のここ一番における強さは定評あるところだ。

日本にとって、男女とも東欧圏というのはどうも苦手だ。

力と技、そして巧妙な反則への誘いこみ……。

コーチングスタッフは、やはりノルウェー戦に焦点をあて、ルーマニア戦では、なるべく失点を少なくする策戦で臨むのではないか。

ノルウェーの進境が本ものだとすれば「三すくみ」も考えられる。

このほかのグループではC組が首位争いに影響するほどのビッグチーム揃い。2連覇を目指す東ドイツは、男子が母国で世界選手権（来春2月）を開き、初優勝の絶好機だけに、女子もタイトルを守り抜いて「男女優勝」を飾りたいだろう。最大のダークホースはソビエト、ここで東ドイツを破れば初優勝有望。

同じ野望はD組のユーゴにもある。女子は前回（昭46）、前々回（昭40）と2回つづけて準優勝、今回は地元での開催、自信があってのことだ。男子（今秋来日）の金メダルと並べたいところである。

第1回優勝のチエコ、第3回優勝のハンガリーそれに西ドイツによるA組は、西ドイツの不利はまぬがれない。

この組の勝者は、日本が進出すれば準決勝リーグでぶつかる。

監督 井 薫

オランダで行なわれた第4回大会からはや2年、この時の大会の経験と反省から、今回、まずルーマニア及びノルウェーと顔合せする予選リーグを勝ち抜くためにはディフェンスの強化特に長身者によるポストプレーからの得点とその場面から生じる7MTの犠牲を最少限に封じることにあるといっても過言ではないと思います。

もちろん、ルーマニアは左腕アーギイル、ノルウェーには1m87のカーレンというゲッターがおり、彼女らのロングシュートに対しての備えもおろそかには出来ませんが、データからみても、ポストからの失点を少なくすることが先決だと判断しています。

そのためには絶え間ないフットワークでポストへのパス段階でつぶすこと。更にポストマンを全くの正面か、逆に全くの背面に置いて、徹底的にマークする事だと思います。然し、防御のみの強化では勝つ事には直接つながりません。攻撃に於ては、やはりこれ迄の数多い遠征を通しての、日本の武器である、速攻を中心に、展開する心算です。只この速攻の中継のパスが長身の相手チームだけに、日本式では通りにくい事と、ボールを完全に握り、長いローリングからの攻撃を得意とする相手だけに、数少ないチャンスを有効にポイントして行くつもりでなければいけないと思います。今回は経験者が七名、新人が五名となりますが、経験豊富なベテランの働きは勿論、若手の鳥居、高野、山下のフレッシュトリオには「突進」のみを命じて、走りまくってもらうつもりです。私も又、前回の体験を生かし、持てる力をフルに発揮出来る様、頑張る決意です。

―世界選手権への抱負―

コーチ 鈴木義男

出発を日前にして今年一月に始まったナショナールチーム合宿から数回の強化合宿で選ばれた選手十二名、よく頑張ったと思う。しかし長い海外遠征での十二名はどうしても人数不足である。今さらーとお叱りを受けるかも知れないがそれだけが心残である。

背が小さいハンディを補うにはスピード以外にないと信ずる、体の大きい外人を相手する場合7人が力の合った組織力を発揮出来てこそ勝利がある。

我々はこれまでの合宿で日本の持味でもあるスピーディなプレーとコンビを徹底して練習して来た本大会の前哨戦であるオランダの国際大会、フランス、ユーゴの親善ゲームなどは勝敗を意識せず個人技主体等の〝作戦的ゲーム〟も考へられる。

親善ゲームで日本チームの全部を見せて本大会で苦戦しては話にならないからだ。

本大会では上位リーグへ進むのが目標である。

前回出場者7人を軸にして、計算出来る得点が望める若手選手の融合いは万全であり、我々が選手のコンディション調整に誤らないかぎり上位入賞は不可能ではないと信ずる。

コーチとしての重責を痛感し、オリンピックを含む前回までの遠征された先輩諸氏の教訓、忠告を胸に秘めて御期待にそえる様一戦一戦執念を持って頑張りたいと思います。

前哨戦、上々のスタート

【速報】 全日本女子は、11月24日オランダナショナルを16―10、25日ノルウエーを14―12で連破した。両試合はオランダ国際トーナメントとして行われたもの。

日本、苦しい？準決勝リーグ

日本が宿願の準決勝進出を果したとすると、ハンガリー、チエコが新たな相手。

どちらも優勝候補。ハンガリーにはトース、フレックという黄金コンビが健在だ。どの試合も二人で、得点の8割近くをたたきだす。

チエコもいちぢほどのすごみはないがバソーワ、ツエーマノーワ、マチソーワ、ブルノーワら粒が揃っている。両国とも力と技を兼ね備え、主力は男まさりの強引さがある。日本の苦戦はまぬがれまい。得意のゆさぶりと、ディフェンスの健闘があっても、どちらか一国を押し切るだけで、相当のゲームスタミナが必要になって来る。

ゆずらぬ東独、ユーゴ

一方の組はユーゴ、東ドイツ、ソビエトの激突。ここを切り抜けた国がおそらく優勝を飾るのではないか。

東ドイツは、前回のエース・ホクムースの名を今シーズンはあまり見かけず、代ってリヒターというアタッカーが活躍しているようだ。このほかクレッシュマー、カーント、ブラウン、GKツーバーらが元気なプレーをつづけ、ゲールホフの進境もあって、攻撃陣の厚味は、前回をしのぐと評判である。

地元のユーゴは、すでにナショナル入りして13年目になるというGKイストバノビッチが相変らず頑張っている（光島国際担当常務理事の話）ほかトルティ、パレザノビッチ、パラペルザらで一歩も引かぬ構えだ。ユーゴ×東ドイツ戦は世界女子史上、特筆すべき大試合になるのではなかろうか。

残り1ケ国はデンマークだろう日本同よう、東欧圏を破るだけのたくましさがあるか疑問。

マドセン、リース、ラゲルボーンらとともにA・ニールセンが今シーズンも主戦メンバーに名を連ねているのは驚異。彼女の世界選手権へのデビューは11年前の第2回大会で、この時、沢田、磯部、宇井、西村らの全日本と対戦している。

結局、優勝争いは、今回も東ドイツ、ユーゴ、ハンガリーの3強にソビエトがからむ展開となる。日本には6位の希望をかけておこう。

（杉山 茂）

―日本代表チーム―

▽団長 田村 正衛
▽監督 井 薫
▽コーチ 鈴木 義男
▽GK 小原 名苗（大洋デ）
和田 祥子（大崎電）
▽FP 平水 秀代（大洋デ）
米 恵美子（大洋デ）
島田 夏枝（大洋デ）
蔵田 照美（大洋デ）
山下恵美子（大洋デ）
牧野 涼子（東京重）
古佐原ひろ子（東京重）
三毛 直子（田村紡）
鳥居 君子（プラザ）
高野 晴子（日本ビ）

世界選手権で勝つために……

小原名苗

12名の新メンバーによる数回の強化合宿も終え、いよいよ出発する事になりました。今回の特徴は、12名のメンバー中前回の選手権大会を経験した人が、7名もいる事と若手の伸びざかりの人が元気いっぱいな事で、これは本当に心強い事です。予選リーグの相手もルーマニア、ノルウェーと決定していまして未知の不安はありません。前回の体験からくる反省点はポストプレイヤーに7MTをとられない事につきますのでその点に充分気をつけたいと思います。本大会での外国チームの真剣さ、強引さはふだんでは想像も出来ないくらいきびしいもので、私達もこの気力の面では絶対負けられないと思います。日本の武器は速攻で、普通日本ではGKからのボール出しとデフェンスからのカットを速攻のきっかけにしていますが、ボールをにぎり完全ノーマークまで攻撃してくる外国チームに対していると、気力と体力を消耗してしまい、そのあとでは充分な速攻での得点は期待出来ないと思いますのでGKの立場として、積極的デフェンスからの速攻の糸口をつかむ事をねらいたいと考えています。最後に監督、コーチ陣から気力、精神面の充実を良く言われますが今回の遠征にあたり、日本のハンドボール界の代表として、恥しくない気力と行動で頑張りたいと思います。(GK、大洋デパート、連続出場)

牧野涼子

国際試合と言うものは何と言っても経験というか、場を踏まなければならないと思います。この事は過去に於いても再三物語られ、立証されてきました。日本は何と言っても条件が悪いのです。然しそれを私達ハンドボール人は、克服しなければなりません。決して外国選手に対して技術的、体力的におとってるとは思えません。前回オランダには行なわれた時の出場選手も七名残っており数回における合宿によってまとまりも見え、チームワークについては心配有りません。ただ二度と同じ失敗はくり返したくないと考えております。キャリアの有るプレイヤーと若手のシャープなプレーとがミックスできれば他の国と対戦しても負ける事はないでしょう。後は精神的なものだと思うのです。

「精神力・根性と言うものは言語で示されるものではなくコートの上にこそ表現されるもの」と村田弘先生がいつだかの「ハンドボール」誌に書いておられたのを思い出し、まったくその通りだと思います。勝利意欲を持って鍛え抜いた練習の成果を十二分に発揮出来ますよう頑張って参ります。そして今後のハンドボール界のためにも……(FP、東京重機工業、連続出場)

再び世界選手権へ臨むにあたりて

主将　垂水秀代

前回の世界選手権大会より早くも二年を迎え様としていますが再びこうして出発の原稿を書く様な事になろうとは思ってもいなかっただけに光栄と思うと同時に責任の重さを改めて感じています。前回と比べ経験者も数多く居り外人チームに対しての不安はない一方、前回を振り返ると攻めではむしろ日本の方が押し気味の展開でした。ところが防禦では体格差を利用してのサイド及び上からポストへのパスに無理な守りをして七メータースローに結びつけられ失点のほとんどが七メータースローと云う口惜しい思いをして来ているだけに今回はパスの入る前の動き、どこにポストマンを置くかと云う事が問題になると思っています。パスワーク以前に早く相手の動きを読み常にフットワークでどの様なプレーにでもついていける様心がけておく事が必要だと思います。今回は前回の苦い経験を基に又自分の力を思いきり発揮出来る様世界選手権大会に臨みたいと思います。(FP、大洋デパート、連続出場)

米　恵美子

一昨年十二月オランダに於て開かれた第四回世界選手権大会は最下位という不本位な成績に終り目標達成できないまま帰国し、あれから二年が過ぎ、短かい期間に再び出場できることが、うそのように感じられます。今回の組み合せはルーマニア、ノルウェーが日本のブロックに決定し、幸にルーマニアとは前回の遠征で八日間の合宿を消化し、ルーマニアナショナルチームとも親善試合を交えており、更にノルウェーとは順位決定で顔を合せる等、全く未知の相手ではなくそれ故にやり易い同時にむづかしい面があります。両チームに限らず前回の遠征で特に感じた事は体格差によるボールテクニックのうまさが日本とは、はるかに違うことです。日本のディフェンスを大きくゆさぶるパスワークはサイドやポストへの得点に直接結びつくプレイに繋がり、また体格差を利用されポストやサイドからの7mスローを誘発する強引なプレイ等は私達の敗因の中の最大のものだろうと思います。再びこれらの失敗をくり返さない為にもポストプレイに対する執拗な守りと重点的にディフェンスに比重を置き守りに徹しなければならないと思います。また攻めに於ては日本人特有の素早い攻撃と日本の持ち味である速攻を中心に得点を重ねていかなくてはならないと思います。前回果す事のできなかった予選リーグを勝ち抜き準決勝リーグへの進出を是非ともかなえたい一念です。最後に再び全日本ナショナルチームの一員として大会に臨めることを光栄に思うと共に自分の立場と責務を十分認識し全国のハンドボール関係者の方々の願いが私達十二名に託されていることを忘れず期待にそえるよう一生懸命頑張ってきたいと決意しています。(FP、大洋デパート、連続出場)

古佐原ひろ子

2年前、世界選手権に出場し、世界一流の女子プレヤーに接し、勝負に対する厳しさと凄ましいばかりのプレーを体験しました。特に一戦一戦勝ち進み実力が伯仲すればするほど、高度なプレーの中

に故意的に平気で反則を使い、試合の勝敗を支配するという共産圏各国の試合ぶりには驚ろかされたものです。云いすぎになるかもしれませんが彼女らは勝つ為には、手段を選ばないとさえ思えます。数回の練習マッチでは日本のプレーは十分に通用しました回を重ねる事に日本でゲームしてる様にさえ思ったのですがいざとなると外国チームは別の力を出すのです。前回の選手権でそのような経験をつんだのは意義深く、勉強になりました。今回再び世界選手権に出場できる事はほんとうに光栄です。まず初めに、予選リーグはどんな事をしても勝ち準決勝リーグでもなんとか頑張りたい。予選リーグであたるルーマニアはポストから7MTを狙うプレーを巧く使うし、ノルウェーは長身のロングシューターが多い。日本のディフェンスが少しでも悪いと、いくら得点してもダメだ。失点を最少限に食い止める事が鍵です。オフェンスは走りながらのプレーを忘れてはいけない。いろいろ書きましたが結局勝たなければなにもなりません。日本代表として恥じない様、最善の努力をしてきたいと思います。（FP、東京重機工業、連続出場）

島田夏枝

二年前オランダで開かれました世界選手権大会の予選リーグで、西ドイツとデンマークに善戦しながらも最後に7MTで振切られ上位リーグに進出出来ませんでした。その帰りデンマークの選手と同じバスに乗り一緒に「上を向いて歩こう」を唱いながら泣くに泣けなかったあのみじめな気持。「この次には必ず！」と心に誓ったその日がつい昨日のように思い出されます。

　ディフェンス面に反省を残した前大会。特に七mスローを多く取られた事でした。今大会でも予選リーグの相手のノルウェー・ルーマニアを考えてみてお互いに点の取り合いと言う事が予想されますそうなった場合まずディフェンス力が問題でしょう。それも7mスローを一本でも少なくする事が勝敗を大きく左右するものと思われます。幸い心強い事にそのディフェンスの中心はGKをはじめほとんどが前回の経験者です。固い守りからの速攻、そしてローリングになった時の速い動きと本来の自分達の動きが出来ればなかりの得点も望めます。「今度こそ！」と未熟ながらも自分なりに大会への意欲を燃やしていますし、私の持ち味はとにかく走り大柄な外国チームをひっかき廻す事にあると思いますのでそれだけに専念し、その役割を充分に果たせるように努めます。残された日々の練習に全力を注ぎ本大会では他国選手に負けない精神力と気迫をもち、自分の持っている力を十二分に発揮し、精一杯頑張ります。（FP、大洋デパート、連続出場）

三毛直子

世界選手権への出場。ハンドボールをしている人であれば誰でも一度は出場してみたい世界の桧舞台。このような大会に二度も参加することは無上の光栄であると共に重責感で一杯です。

　昨年の大会は初めての人達ばかりで自分の持っている力を充分に発揮することができませんでした。今度こそはと全員が一丸となって張り切っています。幸い今回は監督をはじめ選手7名が海外遠征経験者ですので何かと心強く感じます。選手権までにはオランダにおいて行われる招待トーナメントに参加し、オランダ、ノルウェーの人達と手合せする事になっています。この試合において少しでも外人コンプレックスを解消し、色々勉強して大会に望みたいと思います。この大会後ユーゴに移動しユーゴナショナルと公開試合を行なう予定ですが、ユーゴは今回の優勝候補であり得るものは多いと思います。本番での世界選手権（予選リーグB組）で対戦するルーマニア、ノルウェーとは前回親善試合及び選手権で顔を合わせています。特にノルウェーは一昨年同点という結果で終っておりますので、是が非でも勝ちたいと思っております。今回はどのようなチーム編成で試合に望んで来るかわかりませんが、前回はカーレンという長身のチャンスメーカーがいて彼女にかきまわされ苦戦しました。もう一つの対戦相手ルーマニアは世界第三位で、このチームとは練習試合などをして色々と学ぶものがありました。特にコーチのガブリエルさんには日本の難点とするデフェンスを指導していただき、色々と得るものがありました。デフェンスがよければ攻撃もリズムに乗ってくるということを痛切に感じました。今度こそ自分の力を存分に当揮して悔いのないプレーをし皆様のご期待にそうよう最善を尽したいと思います。（FP、川村紡、連続出場）

世界選手権代表に選ばれて

和田祥子

日本代表選手の中に私が選ばれたことは、ただ幸運であったとしか、思えません。そんな私が、世界選手権に行って、何をしてこようとか、何を見てこようなどという、はっきりした目標はまだとても、つかめていません。ただ、私を含めた多くのハンドボールプレイヤー、またハンドボール愛好者やファンが常にあこがれている本場のハンドボールに、じかにこの自分がふれることが出来るということを考えると、安易な気持ちでは行ってこられないと思うのです。やはり今回の遠征で私は何かをつかんでこなくてはいけないし、それを後に続く人たちに伝えることが、試合に勝つことと同時に、大切なことだと思います。また、私は、ゴールキーパーとして特に外国の技術をあらゆる面から勉強してくるつもりです。そして私が吸収したことを、まず自分のチームに還元していきたいと思います。私一人の力は小さなものですが、でも十二名の力を合わせたならきっと何か出来ると思います。最後に、私にこうした栄誉が与えられたのは、私一人の力ではなく、たくさんの方たちのお教えや、お叱かり、そして励ましがあったからと思い、今はその方たちに感謝する気持ちでいっぱいです。（GK、大崎電気工業、初出場）

蔵田照美

中学三年の時クラスマッチで教

わったハンドボールのおもしろさにとりつかれて以来、八年間ボールを追つかける事に夢中でここまで来ました。そして今、全日本のメンバーに選ばれ世界選手権に出場出来る事が、自分自身夢のようでまったく幸運の一言に尽きます。ここまで育てて下さった諸先生、先輩方に心からお礼を申し上げます。

　現在の心境は時間が経つにつれて責任感と喜こびとがいっそう強いものになって来ますが、選ばれた以上ナショナルプレイヤーとして恥かしくない様自分に与えられた立場をよく理解し、責任とプライドをもって頑張る覚悟です。

　国際試合経験の少ない私にとってメンバーの半分が前回の世界選手権出場経験のある先輩達なので、心強いのが何よりです。

　今度の遠征には自分なりに期待もあります。

　それは、海外で初めて対戦する外人相手に自分のプレイがどれほど通用するかと言う事です。

　そして、本場のプレイを直接自分の目で見、出来ればそのプレイを少しでも自分のプレイのプラスにしたいと思っています。

　本大会まで残された日々も数えるほどになりました。この残された期間を大切に自分がチームのレギュラーになった頃のがむしゃらな日々を思い出し原点にもどって最善の努力を尽し勝つと言う気迫と精神力とで何としてでも勝利へ結びつけたいと思っています。（FP、大洋デパート、初出場）

山下恵美子

　ハンドボールをめざす者にとっては大きな夢である世界選手権大会、その全日本代表の一員として選ばれた事は、私にとって思いもかけない事でした。

　以来、全ての面で未熟な私は、三度の合宿で、自分なりに懸命に取り組み、頑張ったつもりです。

　この期になって思う事は、自分に課せられた使命をやりとげる事──の一言です。

　ベテラン先輩のテクニックやリードで、私は自分のプレーを精一杯やって、少しでも役に立ちたい。一人一人の個性をフルに発揮し合ったら、素晴らしいチームプレーが生まれる、私もその通りだと思います。

　外国のプレイヤーに比べ体格、体力面ではまだまだ劣る日本チームが勝つ為には、やはり日本人ならではのプレー、小廻わりのきく早い動き、個性あふれるプレーをすべきだと思います。

　そして本場のハンドボールを自分の目で見て学べるのですから、このチャンスを大いに生かして、少しでも多く新しいプレーを勉強し覚えて来たいと思います。今は、その新しいものへの期待でいっぱいです。

　とにかく私は、自分の置かれている立場というものを再認識して、最善を尽くしたいと思っています。（FP、大洋デパート、初出場）

鳥古君子

　今回の世界選手権代表選手に選ばれ、出発の日が近づいた訳ですが、まだ夢のようで実感が湧きません。

　一年前にナショナルチームの一員に選ばれ、高校時代から憧れていたナショナルプレイヤーの方々と一緒に練習でき、先輩方の個性あるプレーの中で、技術面、精神面において自分なりに勉強させられ、大変得る事が数多くありました。

　国際試合の経験のない私には、私達よりはるかに背の高い外人選手のプレーが日本人のプレーと、どの様に異なり又私達のプレーがどのくらい通用するのか、想像もつきません。

　しかし日本代表なのですから、その名誉に恥じない様、合宿時や先輩達より習得した自分の全てのプレーをハンドボールの本場で十分発揮してみたいとファイトを燃やしています。そして世界選手権で日本ハンドボール界の名声を高める為に少しでもお役に立てる様がんばり、又世界最高の技術や、試合運びを、この目でしっかりと見て、今後の日本のハンドボール界の為に勉強してきたいと思います。（FP、ブラザー工業、初出場）

高野晴子

　この度私が、栄光の代表に選ばれた事は、高校の諸先生、それに、会社の皆様の暖かい御支援と、チームメイトの協力のお陰であり、このチャンスを与えて下さった事に、感謝致します。

　これから世界選手権に行くにあたって、早く全日本のカラーに、とけ込み、自分の持ち味を精一杯発揮出来る様に、努力、精進したいと、思っています。

　選抜チームの場合、チームプレー「和」等は、非常に、難しいと言われていますが、より以上のチームプレーで、その中の先輩達に負けない気迫で、ついて行きたいと思います。そして全日本選手としてのプライドに、自分の素行を、直して行きたいと思います。

　今回の代表者の中に、世界選手権を、前回に経験された方々が多いのは心強いことです。この方々の意見を生かして、本場のハンドボールに関する多くの事を、学んで来たいと思います。（FP、日本ビクター、初出場）

"若い実連"貴重な体験（1勝1分3敗）

日韓男子社会人交流

第3回日韓男子社会人交流は全日本実業団ジュニア選抜（山田稔団長ら役員4、選手14）が遠征して10月27日から11月3日（5日帰国）まで、韓国4市で5試合が行なわれた。ベストメンバーを揃えた韓国各チームに対して"若い実連"は苦しい試合を強いられ、結局、1勝1分3敗の成績で終った。通算成績は日本側の15戦9勝1分5敗。

再度の停電（中断）にペース失なう

第1戦・全慶北大との試合は10月27日午後4時から大邱の慶北体育館で行なわれた。審判金鳳堂、（ほか1名の氏名未詳）

全慶北大 16（10－5、6－8）13 全日本実業団ジュニア選抜

得	【実J】		【慶北】	得
0	西牧	GK	徐永吉	0
0	市川	GK	権永琇	0
6	佐藤	FP	朴永甲	3
4	柳川	FP	※韓相允	0
1	佐々木	FP	金英洙	8
0	辺見	FP	朴京寅	3
2	坂口	FP	李正錫	0
0	布施	FP	朱東祺	0
0	酒井	FP	※金永鎮	2
0	若木	FP	権五根	0
0	岩本	FP	李容甫	0
0	田中	FP	李鍾王	0
13	(1)	7MT	(1)	16

（※印はOB）

○……慶北は立ちあがり2分ロングシュートのリバウンドを拾い金永鎮が先制点をあげた。このあと突然の停電で試合は15分間中断、このあいだに若い日本は落ちつくかとみえたがかえってペースを乱し再開後もシュートミスが多く15分には0－4とされた。16分ようやく佐藤から坂口と渡る速攻で初ゲット、さらに佐藤、佐々木、柳川らがたたみかけ2点差としたが、慶北の遅いテンポからの試合運びにしてやられ、それ以上差を詰められなかった。

後半、日本は守りが立ちなおり攻撃もリズムを取り戻し24分には1点差としたのだが、再び停電中断。そのあと、強引な相手の攻撃に押しこまれ追加点を許し、緒戦を落とした。

釜山旅客にせり勝つ

第2戦・釜山旅客自動車との試合は10月29日午後4時から釜山の九徳体育館（32×20m）で行なわれた

全日本実業団ジュニア選抜 14（6－5、8－8）13 釜山旅客自動車

（審判名不明）

○……釜山旅客自動車は昨秋来日したチーム。

日本は第1戦よりディフェンスがよくなり、攻めても速攻、セットから佐々木が好調に得点をあげ先行した。

得	【実J】		【釜山】	得
0	市川	GK	李尚僯	0
0	西牧	GK	金相泰	0
0	酒井	FP	李炅雨	2
6	佐々木	FP	崔容煥	2
1	吉田	FP	金幸謙	1
5	柳川	FP	金得哲	4
0	布施	FP	金相魯	0
1	佐藤	FP	白南哲	0
0	坂口	FP	秋岩錫	3
0	田中	FP	金名頭	1
0	岩本	FP	朴鍾泰	0
1	若木	FP	金鉱竜	0
14	(1)	7MT	(0)	13

しかし釜山も、日本のシュートミスから逆襲に転じ15分から5分間に3点をあげ3－3、せりあいとなった。日本は佐藤が完全にマークされ苦しかったが、ハーフタイム直前、ローリングから若本がフェイントシュートを決め1点をリードした。

後半に入ると日本は柳川が7MTを含めて連続4ゴールする活躍で主導権を握り、金得哲の巧技を中心に追いこむ釜山の反撃を、GK西牧の好守などでかわし逃げ切った。

高麗セメントの反撃許す

第3戦・高麗セメントとの試合は10月31日午後4時から光州の朝鮮大学校球技場で行なわれた。

全日本実業団ジュニア選抜 12（8－4、4－8）12 高麗セメント 引き分け

（審判名不明）

得	【実J】		【高麗】	得
0	西牧	GK	金呂鉱	0
0	市川	GK	姜義善	0
2	柳川	FP	高泰王	2
0	布施	FP	梁基明	0
1	佐藤	FP	全鶴喆	0
1	吉田	FP	李佑春	1
1	酒井	FP	赴判用	1
0	若木	FP	秋章云	6
5	佐々木	FP	崔永善	1
0	田中	FP	金 椿	0
2	岩本	FP	徐洪奉	1
0	辺見	FP	李良雨	0
12	(0)	7MT	(0)	12

○……一万五千の観衆がコートをとりかこみ、日本の各選手は緊張気味。

序盤の得点機はGK金の好守につぶされたが、相手のスカイプレーの連続ミスからチャンスをつかみ、佐々木、岩本、柳川らで得点着実にリードを奪った。

ところが、後半になって、メンバーを若手主体としてから動きが単調となり、ディフェンスも組織プレーに欠けて秋らの攻撃にゴールを割られた。25分を過ぎ佐藤、佐々木の得点で12－11、そのまま逃げ切るかとみえたが、高麗は終了10秒前、秋のゲットで同点、引き分けにもちこんだ。

日本各選手のキャリア不足が痛感させられた。高麗も得意のスカイプレーがこの日は不調だった。

韓国遠征に想う

団長　山田　稔

春の全日本学生（男女）につづく今シーズン二度目の韓国遠征でしたが、学生同よう各地で盛大な歓迎をうけたことをまず御報告します。我々の側にいたしましても今回目的の一つである実業団連盟所属チームの若い選手達に日々の技術の錬磨に励むことによって国際試合で活躍出来るチャンスがあるという目標と自信を与えたことは前実連理事長田中滋章氏の意図された事の実現と云う意味で大きな成果をあげ得たものと確実しています。

さて、韓国ハンドボール界の現況に接して国民学校（日本の小学校）と中学校の生徒のハンドボールに対する関心の深さと前座試合に見せた彼らの素晴しいプレーが強く印象に残り、近い将来日本の脅威となることを感じさせた。もう一つは大邱の慶北体育館である。東京体育館にまけない様なフロアーと観覧席をもった立派な施設である。完成後日も浅いこともあるが今後国際試合を十分出来る設備のある体育館が韓国に実現したことはアジアのハンドボール界に大きな作用をするものとみてよいだろう。

今回のスケジュールは大邱—釜山—光州と韓国を一周するもので地方ではあまり国際試合の経験がない為に特に関心が強く連日一万人を越す大観衆が集まりその歓迎ぶりはものすごいものがあった。このほか、日本チームが企業所属の選手であることから高麗セメントの工場見学を行程に加えて呉れたり、全成均館大等の様に大会運営の全てがO・B（卒業生）の手で行なわれていたこと、全慶熙戦（11月2日、ソウル）が鄭国際審判員の現役引退を記念する大会であったこと、最終戦は会場の国技院体育館が始めての球技の国際試合であることから記念にペナントを寄贈したこと等が特に印象に残った。そして、韓国遠征のチームで今回の如くソウル近郊以外の地方を転戦する時は先方は地元協会長（その地方の有力者）をはじめ大学総長、実業界、政界のトップクラスの方々が多数試合会場並びにレセプションに出席されるので団長はじめ役員はあらかじめ礼を失せない程度の社交術を必得えておかねばならないことを今後の参考にして戴き度いと思います。（全日本実連副理事長）

全慶熙、多彩な攻撃示す

第4戦・全慶熙大との試合は11月2日午後4時からソウル運動場（屋外）で「鄭鎮圭国際審判員現役引退記念試合」として行なわれた。審判＝鄭鎮圭・李庸憙

全慶熙大 25（14—12、11—7）19 全日本実連ジュニア選抜

得	【実J】		【慶熙】	得
0	市川	GK	黄高求	0
0	西牧	GK	李錦永	0
5	佐藤	FP	※黄致範	0
6	佐々木	FP	※朴鍾甲	1
3	柳川	FP	李鍾南	1
1	若本	FP	※柳在忠	0
0	田中	FP	金業会	3
3	坂口	FP	金允洙	7
0	布施	FP	金性洙	5
0	辺見	FP	韓在愚	0
1	酒井	FP	呉徳煥	1
0	岩本	FP	金晩秋	7
19	(2)	7MT	(1)	25

（※印はOB）

○……開会式が中止されたり、コートが滑りやすかったり、日本にとってもう一つ意気が盛りあがらない。

慶熙は新人・金晩秋（178cm）が序盤鋭い動きから得点、その後は金允洙が活躍するなどして15分には6—3。日本も20分に一度1点差まで追撃したが、慶熙は守りを固めて日本の反撃をたち後半になると、サイド、ポストから矢次早やにゴールを奪い、15分には21—9と大勢を決してしまった。

慶熙攻撃陣の多彩さに比べ日本は〝自分の型〟がなく、ゴールに対する執着心にも欠けて、終盤わずかに点差を詰めたものの勝利にはほど遠かった。

強豪・成均館と激戦

第5戦（最終戦）・全成均館大との試合は11月3日午後4時からソウルの国技院体育館（30×19m）で行なわれた。審判＝朴千祚、金昌勲

全成均館大 27（11—12、16—11）23 全日本実連ジュニア選抜

得	【実J】		【成均】	得
0	西牧	GK	金永年	0
0	市川	GK	姜止炫	0
9	佐々木	FP	車聖福	4
6	佐藤	FP	金成憲	8
3	柳川	FP	李鍾七	8
1	田中	FP	金虎吉	2
2	坂口	FP	※孟止述	0
1	吉田	FP	※宋錫仁	0
0	布施	FP	崔搊鎮	4
0	酒井	FP	※李建祚	0
1	若本	FP	孫泰烈	0
0	岩本	FP	姜和鏞	1
23	(4)	7MT	(3)	27

（※印はOB）

○……韓国1位、5人のナショナルプレイヤーをもつ相手に対し、日本はディフェンスの好調もあって善戦、敗れたとはいえ悔いのないゲームであった。

日本は韓国の誇る車〜金成憲のコンビを徹底的にマーク、車は一応おさえたもののサイドから浮いたり、ゴールエリアの空間でボールを持ちかえたりする金の絶妙な個人技と車からのパスをアシストとする李鍾七の攻撃を防ぎ切れず、10分7—3、20分9—5とリードを許した。

しかし日本も後半、佐々木、柳川、佐藤で反撃、ディフェンスの立ちなおりもあって21分21—22まで追いあげる闘志をみせた。一進一退のあと残り3分に勝負がかかったが、成均館は28分金成憲、29分崔で26—22、日本の攻撃を29分51秒の1点におさえて勝った。

なお、会場の国技院は大韓空手協会などによって最近建てられた「格技・武道用体育館」である。

◇

韓国は実業団チームがいぜんとして少なく、社会人球界はOBたちの情熱にささえられている。この大会の運営、金策などの話を聞くと、私の現役時代を思い出さずにはいられなかった。

しかし、実力のほうは着実に向上しており、新旧交替から若い有力選手の抬頭が印象づけられた。

2年前のオリンピックアジア予選の韓国代表には3人の高校生を含む5人のティーンエイジャーが居たが、いずれも今回対戦した各チームの主力に成長、特に金成憲（東亜高—成均館大、169cm）はますますその技が冴えている。このほか金晩秋、金英洙、金性洙、金允洙、李鍾七といった精鋭がつづいており、日本との〝距離〟はしだいにせばめられる感じをうけた

後記　竹野奉昭

韓国遠征（日韓男子社会人交流）に参加して

総務役員　横地宇吉

実業団連盟懸案のジュニアチームを結成し選抜チームとして、初めて国際試合を行なったことは、今後の実業団チームの発展に対して大きな影響をあたえるものと思います。

今まで男子社会人日韓交流はいずれも単独チームの交流であったが、今回は全国の実業団各チームより推選された人々を合宿に参加させ、日本ハンドボール界（実業団連盟所属）の国際経験豊かな、指導者による合宿練習、そして、その中より選抜された人々による外国遠征で選手個人個人の横のつながり、強いてはチームのつながりが合宿及び遠征で出来、今後の生長が楽しみである。

近い外国ではあるが言葉の違う国へ遠征し日本実業団の代表としてお互に協力し合って試合を行なったことは、勝負を抜きにして社会人としてよき経験を踏んだものと思います。

今後、いろいろ問題はあると思うが、隣国である韓国とはお互に刺戟しながら東洋の特色あるハンドボールを作り上げるべく交流を盛んにし発展させる必要があろうと思います（全日本実連副理事長）

コーチ兼選手　佐藤要二

若いジュニアプレイヤーにとって、他国での試合レセプション—移動—観光という強行日程はそれだけで大いに学んだものがあったと思う。

その中でのコンディションづくり、こうしたことができてこそ「優秀な選手」といえる。

卒直にいって、今回は若いチームだけにわずかなことから（例えば微妙な判定、ルール解釈の小さな違い）リズムをくずし、そのまま自分たちのペースを一度も握れずに試合を終ってしまうことが多かった。

ジュニアの皆さんに要望することは、自分がハンドボールに青春を賭けているというプライドをもって欲しいということ。

それが、相手の攻撃を守りぬく力、1回1回の攻撃を確実にゴールに結びつけていくチーム力につながると思う。このほか、考えるハンドボールをすること、基礎トレーニングを充分に積んで走力、筋力、腕力などをつけて欲しいことなどをこれからの日々の目標に置いて欲しい。

FP　布施雅夫

国内でのライバルとともに遠征楽しい10日間でした。彼らも僕も自分のチームに戻れば、どちらかといえばまだ影にかくれたプレイヤーだ。今頃また影がうすくなっているんではないかなどと遠征の想い出に重なりあわせて思っています。

ところで、私自身を含め今回のメンバーはすべて勉強することばかり、それだけに佐藤さんや佐々木さんなどナショナルのメンバーと一緒にプレーができたことは幸運に思います。

韓国では苦しい試合の連続、でも、私は自分のチームでは得られない多くの〝何か〟を得ることができました。遠征仲間との再会を楽しみにするとともに、今後もこのような内容の遠征や合宿の企画をお願いしたいと思います。

FP　酒井　進

各試合を通じて自分の持ち味を出してプレーができたかは、もちろん、試合中における各選手のよさを学ぶことができたか、試合中の集中力など反省の多い遠征でした。

今回の遠征で試合のペースはどちらにあるのか、試合全体の流れのなかでいかに射ち、いかにパスし、いかに守るかということの難しさ、深さを再確認させられた思いです。

そうした技術的な面とともに、私の場合、下関中央工時代、ソウル、東京と二度にわたって日韓高校に出場しており、その時対戦したメンバーに再会することができたのは嬉しいことでした。

彼らが駅頭まで迎えに来てくれたのには戸まどいましたが、同世代、同じスポーツに生きる友だちと、高校時代とはまた異なったムードで会え、市内見物に案内していただいたり楽しい思い出を得ました。これを機会に文通する約束もしましたし、来年は彼らが来日すると聞き、今からその日を楽しみにしています。

また、日韓両国のナショナルプレイヤーとゲームできたのもよい思い出となりました。

FP　岩本宏道

韓国は日本以上にスポーツ熱が高い、というのが私のもっとも大きな印象です。それだけに施設もすばらしく、管理も行きとどいていました。

わずかな空き地を見つけては、バドミントン、サッカーを楽しんでいる姿を多く見かけました。競技場は、格技の盛んなこともあり、円形に設計され、ハンドボールの正規のコートを取ることはできません。速攻もきかず、セットの得点のみになり常に点差を詰めておかねばなりません。韓国気質の「勝たねばならない」という意識は観衆にまで行届いており、高麗セメント戦では一万五千の大歓声がコートに向けられました。韓国チームの一点は日本チームの二点にも三点にもなってはね返って来るような感じで国際親善でなくては味わえない尊い経験を得ました。又食事についてくる韓国の漬物キムチがこんなに辛いものとは知りませんでした。味付もニンニク入りが多く口になじめませんでしたが、一日に一食は、洋食、中華料理、日本食のどれかがでるので助かりました。

来年の日本での交流にも、私はいま十九歳ですからできればまた参加したいと思います。

FP　若本　修

高麗セメントの選手たちのあたたかい見送りをうけた光州駅での〝別れ〟は、今回の遠征中思い出に残ることの一つであった。言葉もわからずただ手を振るだけ、そうしている内に汽車はうごきだしたが彼らも、僕らも駅をかなりはなれるまで手をふっていた。その後、なにかしらないがうれしくなり韓国にきてよかったと思った。

首都ソウルでは韓国を代表する全慶熙、全成均館と2試合。韓国ナショナルはこの両チームの選手

でほとんど組まれているという強豪だった。

歓迎してくれた韓国協会のためにもよい試合をしたいと思ったが慶熙戦の前半はディフェンスの横の連絡がとれず、一人一人がばらばらでどうしようもなくなっている間に、相手の攻撃を受け前半で4点リードされた。ハーフの時選手同士が話し合い、後半にとはいった。

だが後半も、サイドシュートや手首をつかったロングシュートなどで6点を入れられ、相手のペースにまきこまれた。日本も中盤から守りが立ちなおり速攻も決まって追いあげムードになったが、時すでに遅く敗れた。

両国の親善という面では多くの成果や、僕自身得るところが沢山あったが、試合は1勝1分3敗と勝ちこせず心残りである。

FP 吉田義憲

青い梅山に囲まれて、美しく映える釜山の町並を後にして八時間の長距離列車に乗って着いた光州の地。私は、田舎に来たと同時に、光州の人達と一番深く接する事が出来た思いです。

国際試合を初めて経験する私に取っての第三戦、朝鮮体育大学グランドにて、行なわれたこの試合も、私は自分の力を出す事なく終った。結果は引き分けた。

その夜、相手選手と再会、意志が通じないまま酒を交わす形と成った。言葉が違うため、手まねだけの応対、笑っては首をかしげる事しきり、そうした中で私は楽しい時間を過す事が出来た。朝晩冷え込むこの地で、帰宅途中であったろう各選手が、話の通じない私達と、最後まで心よく応対してくれた事が私は深く脳裏に残っています。

どの街角でも、一生懸命働く少年達に接し韓国状勢のきびしさを体験した私は、光州で、二三の人達では有ったが、人情味溢れる人々に接する事が出来、私はこの地を去るに当って一生忘れることのない想い出の一ページを飾る事が出来ました。

最後に私は、このチームに合流して、常に自分の力を発揮出来なかった事を、今後の課題として対処していく思いです。

FP 坂口健二

始めての遠征で、なにかと不安であった今回の遠征も無事終えることができた。

韓国の気候は日本とほとんど変わりなく、朝夕は冷えこみ、日中は、ポカポカとしていた。食事は辛口の僕でさえ、顔をしかめるくらい辛く、無理して食べたのが良かったのか、病気もせず元気に過ごせた。

商店街や街並は、日本に比べたらなにか古く感じ、そして商店街や街並を見ると、まだあどけさの残る少年達が新聞を売り、靴を磨く姿が多く見られ、胸をしめつけられる思いであった。予定の五試合の成績は、一勝三敗一分けと満足のいく試合ではなかった。各人の技術や精神力も不足していたし、日本の審判と韓国の審判では反則に対する解釈が少しではあるが異なっていたのでとまどった事と、もうひとつ、合宿期間があまりにも、短かすぎて、コンビネーションプレーが、うまくいかなかった事も敗因であると思う。しかし最終戦の対全成均館大の時は、チームが一つのボールに集中して、まとまった事はたいへんうれしく、負けても悔いは残らなかった。

そして全試合を通じて失点が多かった事は、これからの課題は、ディフェンス力をつける事がいちばん大切であり、強いチームになる条件だと思う。これから各選手は各チームに帰るが、この遠征を生かし、もっともっと、うまい選手、強い日本を目指してお互いにがんばろう。

【日韓社会人交流特集は本号で完結。（編集部）】

訪韓「実連ジュニア」選手団名簿

▽団長　山田　稔　全日本実連副理事長
▽監督　竹野　奉昭　全日本実連理事
▽総務　横地　宇吉　全日本実連副理事長
　　　　岡部　正文　全日本実連副理事長
▽コーチ兼選手　佐藤　要二（24才 本田技研鈴鹿 180cm）⑲
▽選手

	氏名	年令	所属	cm	
GK	西牧　健二	(21	三　景	175)	・
	市川　孝	(20	本田技研鈴鹿	175)	・
FP	新実　俊夫	(24	本田技研鈴鹿	180)	・
	佐々木健一	(23	三　景	170)	㉗
	辺見　伸人	(22	日本鋼管福山	180)	・
	酒井　進	(22	武田薬品光	175)	②
	吉田　義憲	(21	日新製鋼呉	176)	③
	田中伝次郎	(20	湧永薬品	170)	①
	岩木　広道	(19	三菱レイヨン大竹	170)	②
	若木　修	(19	神戸製鋼所	174)	③
	柳川　実	(19	大同製鋼	175)	⑰
	布施　雅夫	(19	セントラル自動車	178)	・
	坂口　健二	(19	大崎電気	168)	⑦

○内数字は遠征通算得点（５試合）

合織糸・合織混紡糸



田村紡績株式会社

社長 田村正衛

四日市市東茂福町10－17
TEL 0593－65－2156（代表）
郵便番号 512

4冠目前の大同製鋼有力　男子
～12日から全日本総合選手権～
女子は重機中心に混戦か

今年の日本チャンピオンチームを決める第25回全日本総合選手権は12月12日から16日まで（開会式は11日・体協）東京体育館に男子16、女子12のトップチームを集めて行なわれる。

男子は、来春の第9回世界選手権アジア予選(2月、イスラエル）の代表選手選考を兼ね、女子も各チームの主力が、オランダの第5回世界選手権（本誌8頁参照）へ遠征しているとはいえ、若手の充実が目立っており、最高峰の大会にふさわしい好内容が期待される。

予選トーナメントの組み合せは11月26日抽せんによって別表のように決まった。優勝の行方を採ってみよう。（編集部）

どうからむ本田技研、法政

◇男子（参加16チームを4チームづつ4組に分け予選リーグ、各組勝者で決勝リーグ）、今シーズンNHK杯（6月）、全日本実業団(7月）、国体（10月）の3大タイトルを掌中にした大同製鋼（愛知）が優勝最短距離。中井が復調し花輪、松原ら今が絶頂期の好選手を擁し、藤中、野田、加藤のベテランも健在だ。攻め口の多彩さ、激しい動きの守りは国際級といえる。GK柳川兄も固い。

2連勝を狙う湧永薬品（大阪）や大崎電気（埼玉）は、安定感と試合運びの巧さでは大同に劣らぬが一気に勢いにのるといった魅力が最近欠けている。むしろ波乱の目となり得るのは上り坂の本田技研鈴鹿（三重）、学生チャンピオンの法政、中央（ともに東京）あたりだ。予選の湧永―本田は激戦となろう。

このほか大阪イーグルス(大阪）三景、日体大（ともに東京）、中京大（愛知）らがスキのない布陣で決勝リーグ進出を狙っており、自衛隊1位の海自第3術科校(千葉）やスワロー兵庫、三菱レ大竹（広島）のまとまりも軽視できないものがある。

ユーゴの好影響を期待

優勝争いとは別に、ユーゴ来日の影響が、どう反映するか興味だ。

ユーゴは速さと守りの強さが、現代ハンドボールに不可欠なことを示してくれた。技巧に流れるがあまり力強さのうすれている最近の国内だけに、トップチームを集めたこの大会では、是非、迫力に満ちた〝スピードプレー〟の応酬を待望したい。

抜け出すか、日本ビクター

◇女子（参加12チームを4チームづつ3組に分け予選リーグ、各組勝者で決勝リーグ、各組2位で4位決定リーグ）、主力6人を欧州へ送った大洋デパート（熊本）が欠場したほか、前年優勝の東京重機（東京）も牧野、古佐原の働き手が全日本に加わったため攻撃力に不安を残す。日本ビクター（茨城）、田村紡（三重）、ブラザー工業（愛知）は、エースをとられているが比較的まとまった陣容で、特に日本ビクターは好機だ。

注目されるのは、小粒ながら高校ばなれしたチームプレーを見せる小松市女（石川）、着実に力を伸ばして来た日立栃木。

大崎電気(埼玉)も復調したし、波にのれば日体大（東京）も侮れず混戦模様である。

中学生以下は無料招待

日本協会は12月12日からの第25回全日本総合選手権に中学生、小学生、スポーツ少年団員を無料（招待券制）とすることに決めた。なお、入場料は高校生200円（ただし、12、13日は100円）、一般300円、通し券500円。

予選トーナメント組み合せ

【男子】

湧永薬品（大阪）
海自3術校（千葉）
本田技研鈴鹿（三重）
日体大（東京）
大崎電気（埼玉）
中京大（愛知）
三菱レ大竹（広島）
大阪イーグルス（大阪）
大同製鋼（愛知）
東京教員（東京）
中大（東京）
京都ク（京都）
法大（東京）
全国社会人東地区代表
三景（東京）
スワロー兵庫（兵庫）

【女子】

東京重機工業（東京）
武庫川女大（兵庫）
日立栃木（栃木）
東京学芸大（東京）
田村紡（三重）
日体大（東京）
大崎電気（埼玉）
小松市女高（石川）
日本ビクター（茨城）
東北ムネカタ（福島）
ブラザー工業（愛知）
東京教大（東京）

決勝リーグ日程

- 12月14日（金）15.00～19.50
- 12月15日（土）13.00～17.50
- 12月16日（日）12.30～17.25（NHK総合テレビ16日15.35～17.30）
- 各日第1試合は女子の4位決定リーグ

全日本学生選手権

法政、中央破り初の王座に

早稲田、中京に敗れる波乱

第16回（女子第9回）全日本学生選手権は11月20日から24日まで東京・駒沢屋内球技場（第1・2日は駒沢体育館併用）に全国8学連推せんの男子32、女子14校が参加して行なわれた。

男子は、序盤からビッグカードが組まれ波乱ぶくみと予想されたが、はたしてベストエイトを前に早稲田が中京に敗れたほか、大阪経大、大阪体大、九州産大らの有力校が次々と姿を消し6連勝目指す日体も準決勝で中央に屈した。結局法政×中央という関東学生秋季2位同士の対決から法政がみごとなチームプレーで中央を押しまくり初優勝、関東学生春季につづく栄冠を手にした。

大会史上最高の14校を集めた女子も強豪同士が激しく星をつぶしあった末、日体×東京教大が優勝を争い日体が多彩な攻撃で、粘る東教大を破り4年連続8度目の優勝を飾った。

男子

法政、大体大をかわす
名城、九州産大に逆転勝ち

▽1回戦

日体（関東）	19	6 13	4 1	5	福井大（北信越）
慶応（関東）	22	11 11	11 3	14	東北大（東北）
明治（関東）	20	11 9	5 5	10	山口大（中四国）
甲南（関西）	22	11 11	8 10	18	南山（東海）
岐阜大（東海）	20	2 1 ⋮ 10 7	1 0 ⋮ 7 10	18	福岡大（九州）
東京学芸大（関東）	19	10 9	6 7	13	京大（関西）
中央（関東）	33	18 15	4 3	7	熊本商大（九州）
大阪経大（関西）	24	11 13	4 7	11	芝浦工大（関東）
早稲田（関東）	10	7 3	4 2	6	同志社（関西）

＝以上、駒沢体育館

中京（東海）	26	9 17	7 3	10	大阪大（関西）
名城（東海）	12	7 5	3 7	10	九州産大（九州）
関東学院（関東）	24	15 9	10 3	13	金沢工大（北信越）
東京教大（関東）	26	15 11	11 8	19	広島修道大（中四国）
京都産大（関西）	15	8 7	6 3	9	東北学院（東北）
日大（関東）	21	12 9	5 10	15	北大（北海道）
法政（関東）	13	7 6	3 7	10	大阪体大（関西）

＝以上、駒沢屋内球技場

○……決勝を争ってもおかしくない法政×大体大。さすがに緊迫した試合となった。

20分5−4と法政リードのあと大体大は26分中村、27分坂本で3度目の先行、いったん同点にされたが、28分40秒福永のゲットで前半を終えた。

後半も一進一退をつづけたが、法政は15分すぎ弁手、村田、川島（7MT）とたたみかけて11−9、それ以後の大体大の攻撃を1点に封じるとともに、26、29分にも得点を加え押し切った。

○……早稲田×同志社も伯仲の試合であった。早稲田は同志社のスローペースに苦しみながらも前半20分3−0とリードした。しかし動きに鋭さを欠き追加点があげられず逆に入江、大庭らの巧技にゴールを奪われ、後半2分40秒には3−3と追いつかれた。

早稲田らしさが出たのは8分脇若、8分菊池とたたみかけた時だけ。これでどうにか優位に立ち、逃げこんだ。同志社は巧く相手の動きをおさえながら、かんじんの攻撃力が早稲田のディフェンスを崩せず、特に前半20分間無得点の貧攻はたたった。

○……惑星同士・名城×九州産大は九産大が中馬の好技で押し気味だったが、後半は名城がディフェンスを固めるとともにチャンスを確実に活かして追いあげ、5分6−8から杉山、森、田中がたてつづけに得点、一気に主導権を奪い返して勝った。

○……岐阜大×福岡大もなかなか面白かった。4たび同点の6−6から福大は木原、荒井で10−7、後半すぐに1点を加えて4点差とした時はそのままのペースかと見えたが、岐大は5分以後立ちなおり、石黒（忠）の活躍などで15分13−13。福大は20分すぎ再び先行したが、岐大も追いついて延長となった。延長後1−1（18−18）から、岐大は後半2、4分石黒（忠）が殊勲の2点をあげた。

○……日大×北大は北大が前半15分から連続得点して2点差をつけたが、日大は後半10分12−12とし20分をすぎてからは体力差を見せて突きはなした。東京学芸大×京大は互角の戦況だったが、学芸大は前半25分すぎ内記、樋口で優位に立ち、後半も順調に加点した。

東京教大×広島修道大は前半20分まではせりあったが、教大はハーフタイム直前にあげた2点が大きく後半に余裕を生んだ。修道は後半20分から激しく追いあげたが、いささか遅きに失した。

○……中央は上村、大熊の二人が前半10点をあげる好プレーをみせ、日体は食い下ろうとする福井大を23分間完封するなどしてともに快勝、大阪経大も芝工大からあっという間に6点をもぎとる速攻を示した。芝工大（過去8回優勝）が1回戦で敗退したのは史上初めて。

中央、大経大に雪じょく
学芸大、岐大を振り切る

▽2回戦

日体	22	12 10	5 6	11	慶応
明治	23	13 10	7 4	11	甲南
東京学芸大	19	10 9	4 10	13	岐阜大
中央	11	6 5	6 4	10	大阪経大
中京	13	9 4	4 5	9	早稲田
名城	27	12 15	5 2	7	関東学院
京都産大	15	9 6	3 1	4	東京教大
法政	35	17 18	10 7	17	日大

○……優勝候補の一番手・早稲田が中京に逆転負けする大波乱があった。

先手は中京がとり12分3−1、早稲田は16分脇若のゲットを口火に20分までに4ゴールして5−3に「関東1位」の貫録じゅうぶんだった。ところが、中京はよく粘り24分4−5、さらに後半いきなり1点を失いながら4分には再び差をつめ、11分には7MT（布垣）でついに6−6。このあたりから早稲田に焦りがのぞきはじめた。

○……中京は17分布垣のゲットで

8—7と先行、だが早稲田は18分田中、21分菊池で9—8。誰もが「どうやらこれで早稲田のペースか」と思ったにちがいない。

中京の迫力満点の〝逆転劇〟はこのあとに生まれた。22分梶村、23分7MT（夏目）、26分布垣、28分成田、29分布垣。みごとであった。

ディフェンスがかんじんなところでふんばれず、得意のサイド攻撃も不調——早稲田は最後までよいところがなく、初優勝ばかりか一暴れをもくろんだ全日本総合（12月・東京）への出場権も逸した。

○……中大×大経大。期待にたがわぬ好試合の末、中大が左腕上村の大活躍で前年の雪じょくを遂げた。

11—10で残り2分40秒、逃げ切りをはかる中大にストーリングが課せられ、ムードは最高潮になった。中央、サイドからの大経大の攻撃を中大守備陣は執ように防いでFTの連続、29分25秒こん身の力をこめた奥川の右サイドからのとびこみシュートはGK吉近の堅守に阻まれ、激戦が終わった。

○……それにしても上村の攻撃はすばらしかった。切れのよいフットワークで大経大ディフェンスを振り切りシュートを決めるかと思えば、45度からコース、スピードタイミングとも申し分ないミドルをとばす。前半3点、後半4点の荒かせぎだった。

大経大は組識攻撃で中大を上廻ったが、相手退場中や7MTの優位を活かせず、つねに後手にまわったのが痛かった。

○……この2試合の充実に、他の6試合はいささか色あせた。わずかに東京学芸大×岐阜大で岐大が、前半25分6—9と劣勢から4点を奪い逆転、後半になって今度は東京学大が一気に追撃を実らした試合がスタンドをわかせただけ。

法政、名城、京産大は楽に試合を進め、日体×慶応は立ちあがり慶応が2—0、明治×甲南も甲南がいきなり3—0とするなどしたが、すぐに地力の差があらわれ波乱を呼びおこすにはほど遠かった。ベストエイトを決める試合としてはどうも物足りない内容である。

京産大と名城健闘空し

▽準々決勝

日体 21（9—5、12—4）9 明治

得	【日体】		【明治】	得
0	斉藤	GK	有吉	0
0	岸本	GK		
2	細江	FP	相木	0
2	水井	FP	村重	3
0	平野	FP	指宿	2
2	田原	FP	山岡	2
3	嘉井	FP	山根	0
4	橋本	FP	石井	1
4	中山	FP	加納	1
1	斉藤	FP	江幡	0
1	大房	FP	岡部	0
2	福井	FP		
21 (1)		7MT		(0) 9

○……日体は前半なかばまでに田原のサイドからの攻撃を中心として着実に得点したが、明治もよく粘り20分5—5。しかし、日体はこのあとがっちり守りを固め、ハーフタイム前、再び攻撃陣も立ちなおって優位をキープした。

後半も、日体のペースで進み15分15—6、大勢を決めた。（田村幸雄）

中央 19（12—2、7—4）6 東京学芸

得	【中央】		【学芸】	得
0	吉近	GK	斉藤	0
0	山田	GK	早川	0
1	村田	FP	樋口	1
4	今関	FP	金子	1
5	山村	FP	服部	1
0	松木	FP	内記	1
1	上村	FP	江成	1
3	佐野	FP	古俣	0
0	松下	FP	中沢	0
5	大熊	FP	金村	1
0	藤本	FP	谷口	0
0	戸田	FP	古屋	0
19 (3)		7MT		(1) 6

○……守りの力がスコアとなった。学芸はいつものようにキビキビした攻撃を示したが、中央のディフェンスはその動きにまどわされず相手に得点機を与えなかった。これに対して学芸大の守りは、中央の突進を前面で阻止できず、山村今関、大熊らを勢いづかせてしまった。（杉山　茂）

中京 13（7—3、6—8）11 名城

得	【中京】		【名城】	得
0	福井	GK	高橋	0
0	横山	GK	木村	0
1	小川	FP	松井	0
2	成田	FP	石塚	0
3	夏目	FP	森	0
1	梶村	FP	江崎	1
0	小林	FP	杉山俊	0
6	布垣	FP	佐藤	5
0	岸見	FP	田中	0
0	佐藤	FP	山本	3
0	三宅	FP	杉山孝	2
0	村上	FP	岩田	0
13 (2)		7MT		(0) 11

○……互いに手の内を知りつくした相手。名城は中京・夏目をマンツウマンでマークするなど策をねって臨んだが、守りの連けいがこれで崩れてしまったようで、結果的にこの戦法は成功したとはいえなかった。

中京は、前日、早稲田を破って波にのり、長身者を揃えた攻撃陣がこの日も豪快なシュートを決め、主導権を握った。

後半、名城はオーソドックスなディフェンスに戻し、攻撃でも互角以上にわたりあったが、前半の失点を詰めるまでにはいたらなかった。中京の終始ゆとりのある試合ぶりが目についた。（岡前義春）

法政 16（8—4、8—6）10 京都産大

得	【法政】		【京産】	得
0	柴田	GK	日比	0
0	森田	GK	東岡	0
2	柳	FP	福井	4
4	村田	FP	戸田	1
1	長谷川	FP	大原	2
4	井手	FP	西沢	3
3	川島	FP	大本	0
0	川村	FP	荻野	0
1	荒井	FP	宮田	0
0	矢島	FP	島	0
0	青山	FP	寺田	0
1	橋本	FP	浅田	0
16 (2)		7MT		(2) 10

○……10分まで3—1と京産大が先行、おもしろくなりそうだったが、その健闘も15分ごろまで福井のロングシュートによる単調な攻めだけでは巧者を揃えた法政のディフェンスをくずせない。守りが固まった法政はたくみなローリングから次々と京産大ディフェンスをやぶった。相変わらず村田の華麗なプレーとGK柴田の好守が光った。京産大はディフェンスに一考を要しよう。（根城　泰・本誌編集委員）

中京、法政は崩せず

▽準決勝

中央 13（6—6、7—6）12 日体

得	【中央】		【日体】	得
0	吉近	GK	斉藤将	0
0	山田	GK	岸本	0
3	村田	FP	細江	3
2	今関	FP	永井	0
1	山村	FP	平野	1
0	松本	FP	田原	2
0	佐野	FP	嘉井	4
3	上村	FP	橋本	1
2	大熊	FP	中山	1
0	松下	FP	斉藤幸	0
0	藤本	FP	大房	0
2	蒲生	FP	福井	0
13 (2)		7MT		(0) 12

○……実力互角の両者は、一進一退をくり返し前半は同点で終った。後半10分すぎからもろくなった日体大ディフェンスを中大が徐々にくずしてゆき、点差を開いていった。中大ディフェンスもしばしばピンチがあったがGK山田の巧守に要所で助けられた。日体大は得意の速攻が封じられたのが痛く、セットオフェンスでも決定力を欠いていた。終盤おいこみ一点差までつめ場内は大いに沸いたが及ばなかった。（根城）

法政 14（8—3、6—7）10 中京

【中京】	得		【法政】	得
福井	0	GK	柴田	0
横山	0	GK	森田	0
夏目	2	FP	井手	2
成田	2	FP	柳	4
小川	0	FP	川島	4
梶村	2	FP	村田	4
小林	0	FP	長谷川	0
布垣	2	FP	川村	0
岸見	0	FP	荒井	0
佐藤	2	FP	矢島	0
三宅	0	FP	青山	0
村上	0	FP	橋本	0
	10	(0) 7MT (2)		14

〇……法政が村田の速攻で先制点をあげ、続いて8分柳がサイドから決めリードをうばった。中京が法政のディフェンスを攻めあぐんでいる間に法政は着々と加点しワンサイドの展開となった。中京はエース夏目か法政の巧いディフェンスにあいつぶされたのが響いた。

後半中京も反撃したが、要所で凡ミスがでて点差は縮まらなかった。優勝候補の早稲田を破り波にのる中京も法政の巧さには一歩をゆずった。（根城）

中京、日体破り3位に

◇3位決定戦

中　京　16（8―3　8―6）9　日　体

〇……中京は法政戦（準決勝）とはうってかわってのびのびとした攻守を見せ15分までに6点をリード、一方の日体はゴールまでの動きが鈍く21分間無得点という不調。後半も中京が着々と得点するのに対し、日体は15分7―12としたのが精いっぱい。中京はGK福井の好守もあり、公式戦で初めて日体を降し、東海勢宿願の3位入賞を果した。（大塚文雄）

法政、チームプレー鮮やか

◇決勝

法　政　16（9―8　7―6）14　中　央

【法政】	得		【中央】	得
柴田	0	GK	吉近	0
森田	0	GK	山田	0
柳	1	FP	村田	1
長谷川	0	FP	今関	1
川村	0	FP	山村	2
川島	2	FP	松本	2
村田	6	FP	上村	2
井手	4	FP	佐野	1
橋本	3	FP	蒲生	1
矢島	0	FP	戸田	1
荒井	0	FP	藤木	0
青山	0	FP	大熊	3
	16	(2) 7MT (0)　（審・佐野　大塚）		14

〇……法政が2分橋本のポストプレーで先行したが10分中央も今関のシュートで同点、一進一退のすべり出しとなった。17分すぎ4―4の同点から、法政は井手のサイドシュートでリード、20分にも村田がロングを決め勢いにのるかとみえたが、中大も大熊が気力に満ちたシュートを連続させて反撃、予断を許さぬまま前半をおえた。

〇……後半、法政は村田を中心にした巧みなローリングから中大ディフェンスをくずし、橋本、長谷川、井手らがシュートを決め14分には5点差をつけた。中央は攻める範囲がせまく、法政の機敏なディフェンスを攻めあぐんだ。法政は要所での村田の巧シュートで17分すぎには14―8と試合を一方的なものにした。中央も終盤おいこみ24分松本のゲットで3点、27分には2点差とおいこんだが28分の7MTを法政GK柴田におさえられたのが痛く逆転はならなかった。

法政には、関東学生で中央に連勝している自信がのぞかれ、また、攻め口の多彩さでも上廻ったことが勝因である。（根城）

ファンの目　橋本、畑中選ぶ

白熱した競技、優勝争いとは別に全日本学生連がこの大会で初めて試みた「ファン（投票）による優秀選手」は、関係者やファンの関心を呼んだが、男子では橋本義人選手（日体大3年、新居浜工出）、女子では畑中多恵子選手（東京教大4年、寝屋川高出）が最高得票、記念品を贈られた。

投票は、期間中の有料入場者に投票券を渡し、単記で行なわれたが総投票数は四七七（内訳、男＝二八三、女＝一九四）。5日間の延総入場者・四千八百人（推定）の一割が〝清き一票〟を投じたことになり橋本君の得票は54、畑中さんは25と2位に大きく差をつけてのものだった。不まじめな投票もなく、第1回としてはまずまずの成果だったが、「関東以外の選手はよく知らない」「ファン投票を行なうくらいなら、試合前に選手紹介をすることのほうが先決」といった声もあたっ。

柳（法政）らベストセブンに

全日本学連は大会終了後、この大会のベストセブン（男女）を次のように選び、発表した。

▼男子▽GK、福井秀人（中京）▽FP、柳隆司、井出信一、村田幸男（以上法政）、山村佳生（中央）、夏目真治（中京）、脇若正二（早大）

▼女子▽GK、榎本美保（武庫川女）▽FP、岩本富順、坂本陽子、小林信子、松本みどり（以上日体）、畑中多恵子（東京教大）、西田恵子（東京女体大）

〃〃〃〃〃〃〃〃

コートサイドに拾う

〇……3位決定で日体を破った中京セブンはまるで優勝したような騒ぎ。それもそのハズ、創部以来、日体を公式戦で破るのが、同校の悲願だったからだ。大本命・早大を降し、日体も押し切った中京の活躍は今大会のハイライトとコートサイドも絶讃しきりだった。

〇……試合中に馬とび？　法政×中京戦の後半22分、法政のテクニシャン村田がGKからのパスを受けて攻撃に移ろうとしたところ佐野審判員と危うくぶつかりそう。村田は身をかがめた佐野氏の背中に両手をついてとびこし、しょう突をさけた。ボールは相手へ渡ったものの、スタンドはこの〝妙技〟に大爆笑だった。

日体、4連勝

女子

▽1回戦

大阪体大（関西） 13（5−1 8−2）3 愛知教大（東海）

日女体大（関東） 16（8−0 8−0）0 中京女大（東海）

大阪教大（関西） 7（3−2 4−3）5 福岡教大（九州）

東京教大（関東） 14（5−3 9−3）2 山口大（中四国）

東京学芸大（関東） 10（4−1 6−1）2 甲子園短大（関西）

武庫川女大（関西） 8（4−2 4−2）4 中京（東海）

○……武庫川×中京は関西、東海の1位同士。上り坂の武庫川に対し、中京にはひところの精彩がなく、意外の差をつけて武庫川が勝ち進んだ。

大阪教大×福岡教大はもつれあいから後半18分5−5。大教大は残り2分間に山下が決勝の2ゴールをあげた。

東京教大×山口大は、畑中、田中の両エースの射ちあいとなったが、東京教大が後半チャンスを確実に活かし最後は大差となった。

東女体大、貧攻で自滅
日体は大阪体に快勝

▽準々決勝

日体（関東） 11（7−5 4−0）5 大阪体大

○……大体大は前半10分3−2と優位に立ったが、日体はすぐ小松が2ゴールして余裕を取り戻し、そのあとのチャンスを着実に活かしてリード、特に後半は1点も許さぬ守りの強さもあって快勝した。（岡田修・全日本学連委員長）

大阪教大 7（4−2 3−3）6 日女体大

○……ともに決め手のない攻撃のくり返しだったがわずかに大教大が押し気味に試合を進めた。

後半も同じような展開から大教大は田中、牧野で20分6−3と開いた。日女はこのあと高田、曽我部のゲットで追いすがったものの時間切れで大教大に逃げこまれた。（岡田）

東京教大 5（2−0 3−3）3 東京学芸大

○……東教大が11分畑中、13分伊藤で2点をあげたのに対し、学芸大は攻撃に変化がなく前半無得点という貧攻。後半、東教大は2本の7MTなどで15分5−1と開き、学大にそのあと2点を奪われたものの影響なかった。（岡田）

武庫川女大 3（1−0 2−1）1 東女体大（関東）

○……前半の得点機はむしろ東女の方に多かったが、武庫川GK榎本の堅実な動きと、シュートミスなどでどうしてもゴールを割れない。

武庫川は4分辻のあげたゴールを大事に守り、後半3分にも辻が1点を加えた。東女は9分7MT（高橋）でようやく1点を返したが、そのあと無得点、逆に武庫川に20分1点を加えられてしまった。東西秋の優勝校同士という顔合せにしては、やたら重苦しいだけで、見せ場に乏しい内容だった。（岡田）

武庫川女、東教大に敗る

▽準決勝

日体 15（6−0 9−2）2 大阪教大

得	【日体】		【大教】	得
0	鈴木	GK	市居	0
0	長谷川	GK		
0	岩本	FP	滝川	0
0	小林	FP	八木	0
0	西尾	FP	松原	0
0	坂上	FP	山下	0
0	坂本	FP	田中	1
0	菅井	FP	佐藤	0
0	松本	FP	大柳	0
0	小田	FP	山本	1
0	林	FP	橋本	0
0	藤山	FP	牧野	0
15（1）		7MT		（0）2

○……早い攻撃の日体、セットからじっくり攻めようとする大教大と対照的な試合ぶりだったが、大教大は相手ディフェンスを攻め崩すだけのスピードがなく、一方的なゲームとなってしまった。

準決勝としてはまったく物足りなく、上昇気味といわれる女子学生界だが、実力未だしの印象を深めた。（佐分止典）

東京教大 7（4−1 3−4）5 武庫川女大

○……前半10分すぎ東教大が先制点をあげ、畑中があざやかなポストプレーを決めリードした。武庫川は再三のチャンスをシュート力がないためのがし前半は1点を返しただけ。後半武庫川もシュートも決まり出し健闘したが、実力差はどうしようもなかった。（根城）

得	【武庫】		【東教】	得
0	榎本	GK	名賀	0
0	吉田	GK	坂梨	0
0	橋本	FP	畑中	4
0	三輪	FP	橋本	0
1	中川	FP	松井	1
0	倉	FP	白鳥	0
2	寺尾	FP	土屋	2
1	辻	FP	横田	0
0	赤尾	FP	中島	0
0	中塚	FP	神宮	0
0	谷本	FP	西山	0
1	井上	FP	吉本	0
5（0）		7MT		（0）7

武庫川女、初の3位に

▽3位決定戦

武庫川女大 6（5−2 1−1）3 大阪教大

○……武庫川は10分までに井上、辻、橋本らで4−0、一方的な展開かと思われたが、大教大もそのあとで2点を返し興味をつないだ。

しかし、地力の差ははっきりしており武庫川は23分に1点を追加、後半は鋭さを欠いて7MT1本に終ったが、GK榎本の好守もあり、関西のチームとして初めて3位に入賞した。（永山 茂）

東教大、畑中の奮闘光る

▽決勝

日体 7（1−1 6−3）4 東京教大

○……前半東教大が4分松井があげた1点で押し気味に試合を進めたが前半終了まぎわ日体大は7MT（藤山）をきめ同点においついた。後半開始直後東教大が畑中、横田でたてつづけに2本決めてリードを奪ったが、日体大も10分すぎ坂本がフリースローからポイント、おいあげた。続いて7分7MT（藤山）を決め同点、さらに12分藤山が逆転のゴールを決めこのあたりから東教大のリズムがくずれてきた。日体大はすかさずこれに乗じ坂本、藤山らが次々に加点、東教大を突きはなした。東教大はエース畑中の動きが封じられたのが痛かったが、関東学生では春3−11秋6−11と大差で敗れた相手であり、この日の健闘は賞されていい。（根城）

得	【日体】		【東教】	得
0	鈴木	GK	名賀	0
0	長谷川	GK	坂梨	0
2	岩本	FP	畑中	2
0	小林信	FP	橋本	0
0	林	FP	松井	1
0	西尾	FP	白鳥	0
2	坂本	FP	秋山	0
0	坂上	FP	土屋	0
3	藤山	FP	横田	1
0	松本	FP	中島	0
0	小田	FP	神宮	0
0	菅井	FP	西山	0
7（2）		7MT		（0）4

優勝監督の話

法政・安藤監督　秋の関東学生が2位で終り選手たちが奮起した賜だと思う。全員が優勝の殊勲者だ。結果的には第1戦の大体大が最大のヤマであった。

日体・一宮監督代行　今の女子学生界はどこも実力が不安定で、ウチもその例外ではなかった。確実なプレーを心掛けさせた。

北大に5年連続「知事杯」

各地の学生記録（続報）

北海道

◇第5回北海道知事杯争奪学生選手権◇10月26～28日◇10旭川教大◇参加6校

結果的には北大の連覇になったが、独走というわけにはいかず盛りあがりのある大会だった。

第1日は釧路教大が好調を示し2勝をマーク、北大は北見工大と星を分けた。

第2日に入って、一つのヤマと見られた釧路教大×北見工大戦で釧路が勝ち、がぜん優位とみられたが、旭川教大戦で前半のリードを守り切れず敗れる取こぼしがあった。それに引きかえ北大は手固くこの日の試合を握り、自力優勝をかけた最終戦で釧路教大を圧倒5年連続、王座を守り切った。

各校とも守備力の向上が目立った。個人最多得点は和田（北見工大）31点。なお、第2日旭川教大×北大・旭川教大1年混成軍の女子オープン戦を行なった。

室蘭工大 15（10－4, 5－8）12 北見工大
北　　大 22（15－8, 7－5）13 旭川教大
釧路教大 24（11－7, 13－6）13 小樽商大
北　　大 13（5－7, 8－6）13 北見工大（引き分け）
釧路教大 18（9－3, 9－6）9 室蘭工大
旭川教大 19（13－4, 6－10）14 小樽商大
釧路教大 14（3－8, 11－5）13 北見工大
北　　大 23（10－4, 13－2）6 小樽商大
旭川教大 15（7－6, 8－8）14 室蘭工大
北見工大 22（13－2, 9－3）5 小樽商大
北　　大 15（9－7, 6－3）10 室蘭工大
旭川教大 15（11－6, 4－7）13 釧路教大
室蘭工大 12（4－4, 8－8）12 小樽商大（引き分け）
北見工大 21（11－3, 10－5）8 旭川教大
北　　大 24（14－9, 10－2）11 釧路教大

【順位】①北大4勝1分②釧路教大旭川教大3勝2敗④北見工大2勝2敗1分⑤室蘭工大1勝1分3敗⑥小樽商大1分4敗

中四国，山口大が3季ぶり

中四国

◇11月3、4日◇松山市・愛媛大球技場◇参加1部5校、2部6校

1部は第1日で顔を合わせた山口大×広島修道が〝事実上の決勝〟。期待どおりの接戦となったが、山口大は前半巧く優位に立ち、振り切った。

難関を通りこした山口大は、そのあと岡山大、香川大の食い下りを退けて全勝、47年春以来3シーズンぶり5度目、秋季選手権では第6回（昭42）以来6年ぶりの優勝を飾った。2位は春季優勝の修道が入り、1部復帰の岡山大が3位に食いこんだ。

2部は3校づつ2組の予選リーグのあと各組同位者が1～6位までを争ったが、ホームコートの愛媛大が圧倒的な強味をみせ、広島大福山らを退け初優勝した。

44年以降秋季には絶対の強味を示していた昨秋の覇者・松山商大は、今春1部をすべり、今季もその不振からまったく立ち直れず2部最下位という転換ぶりだった。立教、芝浦工大（関東）、関学（関西）など各地で名門の低迷が目立っているが各校のカムバックを期待したい。

▽1部
修　　道 17（9－5, 8－4）9 広島工大
岡 山 大 16（9－9, 7－6）15 香川大
山 口 大 15（6－7, 9－6）13 修　　道
香 川 大 19（9－5, 10－2）7 広島工大
山 口 大 17（10－9, 7－5）14 岡 山 大
山 口 大 19（8－5, 11－4）9 広島工大
修　　道 18（9－6, 9－9）15 香 川 大
岡 山 大 18（11－3, 7－3）6 広島工大
山 口 大 17（9－7, 8－6）13 香 川 大
修　　道 16（9－5, 7－8）13 岡 山 大

【順位】①山口大4戦全勝②広島修道大3勝1敗③岡山大2勝2敗④香川大1勝3敗⑤広島工大4敗

松山商大ついに最下位

▽2部予選リーグA組
広島大福山 23－8 近代工学部
近代工学部 12－6 松山商大
広島大福山 17－6 松山商大

▽同B組
山口大工学部 11（分）11 広島大
愛 媛 大 19－6 広島大
愛 媛 大 21－3 山口大工学部

▽同5・6位決定戦
山口大工学部 10（7－5, 3－2）7 松山商大

▽同3・4位決定戦
広 島 大 17（8－2, 9－8）10 近大工学部

▽同1・2位決学戦
愛 媛 大 14（10－1, 4－2）3 広大福山

大阪体大、最終戦（大経大）で1位決める

関西

◇9月28日～10月28日◇大阪市中央体育館など6会場◇参加1部7校、2部7校、3部7校、4部5校、5部4校

初の5部制。1部は予想どおり大阪体大、大阪経大、京都産大の前季3強が、今秋もそのままの力を示し、第6日以降の星のつぶしあいに興味が集った。

まず対決した大阪経大×京産大は大阪経大が、後半食いさがる相手を突きはなして一歩リード。

つづいて顔を合せた京産大×大阪体大は、大阪体大が主力を欠いたために苦戦、京産大が逃げこんだ。これで、三つ巴の公算もでてきたのだが、第9日、京産大は同志社戦で、序盤5－0とした優位を守り切れず、同志社・上田、牧野の活躍に逆転負けをきっし、優勝圏外に去った。同志社はこれで京産大と並び5シーズンぶりに3位。

この結果、最終戦大阪体大×大阪経大に優勝がかけられることになり、5勝の大阪経大が勝てば文句なく首位、大阪体大はたとえ1点差ででも勝てば、同率ながら得失点差で大阪経大を追い抜けるというスリリングな局面を迎えた。

試合は大阪経大が押し気味で前半ダブルスコアとしたが、後半開始直後バランスを崩して大阪体大につけこまれ互角となり、白熱した試合になった。

しかし、大阪体大は、終盤貴重な勝ちこし点をあげ制勝、得失点差で大阪経大を16点上廻り優勝を決めた。これで4シーズン連続4度目。優勝が得失点差で決まったのは45年秋の3校同率以来、史上3度目のこと。それにしても、4シーズンぶりの栄冠を目前にした大阪経大にとっては、悔いの残る試合であったろう。

Bクラスは、いずれも力が似かよっていたが、1部復帰の阪大、甲南が京大から勝利をあげた。阪大は甲南も降して、本誌の調べでは部創立以来、初めて1部で2勝をマーク、5位となった。

2部は前季1部の近大が、緒戦でつまづきながら、そのあと連勝し2度目の優勝。

3部は追手門学院が1敗しながらトップに立ち3度目の優勝、カムバックを期待された関学は、追手門学院を破る力を示しながら、没収の1敗がたたり、2部復帰への足がかりをつかめなかった。

4部は最終戦で和歌山大が敗れたため和歌山大、大阪薬大、大阪教大の3校がいずれも1敗。得失点差の争いから大阪薬大に初優勝がころがりこんだ。

初の5部は、新加盟の神戸商船が巧みな試合運びで全勝、リーグ後の入れ替え戦でも勝ち、上々のスタートを切った。

なお、各部の個人得点1位は1部・津川昭（大阪経大、39点、生駒高出）、2部・谷口賢次（京都教大、44、大阪池田高出）、3部・倉本積一（天理、38、添上高出）4部・西川徹（和歌山大、21、伊丹高出）、5部・北西正典（京都工芸繊維大、18、三国丘高出）に決まった。

京都産大、同志社戦落とす

▽1部

		前半	後半		
同志社	28	14－1	14－4	5	京大
京都産大	14	9－5	5－5	10	大阪大
大阪経大	32	16－9	16－6	15	甲南
大阪体大	32	19－6	13－4	10	大阪大
大阪経大	38	17－11	21－8	19	大阪大
京都産大	27	13－5	14－2	7	京大
同志社	23	12－7	11－4	11	甲南
大阪体大	40	22－5	18－7	12	甲南
大阪経大	30	13－6	17－3	9	京大
同志社	16	8－5	8－9	14	大阪大

【阪大】	得		【同大】	得
GK 杉瀬	0		GK 高橋	0
山下	0		FP 牧野	4
FP 鐘ケ江	0		横川	3
大山	4		中村	0
森田	2		入江	1
高田	0		吉山	0
新家谷	4		上田	4
蒲池	4		早瀬	0
海野	0		大庭	4
三木	0		松井	0
梅尾	0		古川	0
佐藤	0			

（審・楮谷・加堂）

16（1）7MT（0）14

		前半	後半		
大阪経大	15	8－6	7－4	10	京都産大

【京産】	得		【大経】	得
GK 日比	0		GK 福井	0
東口	0		FP 奥川	5
FP 福井	4		津川	6
戸田	0		穂積	3
大原	3		山本	0
西沢	2		橋本	0
天本	1		二宮	1
荻野	0		太田	0
岩原	0		石井	0
富田	0		林	0
島	0		塩川	0
寺岡	0			

（審・坂口・樫塚）

15（2）7MT（1）10

○……京産大は10分すぎから連続3ゴールして4－1とリードを奪ったが、大経大は奥川、穂積の活躍で逆転、後半は津川が鮮やかなプレーで得点、京産大を振切った。

		前半	後半		
大阪体大	29	15－2	14－3	5	京大
大阪大	17	9－7	8－7	14	甲南
京都産大	26	14－7	12－3	10	甲南
大阪体大	16	9－5	7－4	9	同志社
大阪大	24	13－2	11－3	5	京大
大阪経大	14	6－4	8－5	9	同志社

京都産大 8（4—3、4—3）6 大阪体大

【大体】得		
GK	宍倉	0
	神谷	0
FP	坂本	1
	白柳	2
	松尾	0
	山内	1
	藤田	0
	宇尾野	1
	矢辺	0
	野波	0
	岡村	0
	丸井	1

【京産】得		
GK	日比	0
	東口	0
FP	福井	1
	戸田	0
	大原	2
	西沢	3
	中前	0
	天木	0
	荻野	2
	富田	0
	寺 島 岡	0

（審・藤木・福井）

8（0）7MT（2）6

○……ともに決め手がないまま進んだが、京産大は前半28分から後半10分までに4ゴールして6—3としたのが大きかった。大体大は後半24分6—6に追いついたが、そのあと京産大の富田、西沢に得点を許し敗れた。中村、福永の主力を就職試験で欠いたのもひびいたようだ。

同志社 10（4—6、6—3）9 京都産大

甲南 21（11—2、10—8）10 京大

【京大】得		
GK	広畑	0
FP	藤田	0
	真鍋	2
	平井	6
	渡辺	2
	井上	0
	花渕	0
	大西	0
	高津	0
	高田	0
	平井	0

【甲南】得		
GK	加藤	0
	古谷博	0
FP	川西	1
	中村	6
	武田	8
	藤井	1
	伊藤	0
	藤島	2
	石橋	3
	高橋	0
	和田	0
	緒方	0

（審・村上・金田）

21（0）7TM（0）10

大阪体大 16（4—8、12—6）14 大阪経大

○……全勝の大経大、1敗の大体大。優勝をかけた一戦にふさわしい好試合だった。前半は大経大が津川、穂積の好技で押し気味に試合を進め、その展開ぶりから一気に勝利を握るかにみえた。

ところが、大体大は、後半開始と同時に2本の7MTを含めて、あっという間に6点を奪い10分には10—8と逆転をとげた。

○……大経大は15分すぎから立ち直り再びリードを奪う場面もあったが、主導権までは握れず、20分13—13。すべてのかかった残り7分、大体大はまず中村で先行、つづいて27分の7MTをこの日大活躍の新人・丸井（堺工出）が決め15—13、必死の大経大は29分1点差に詰めよったが、大体大は残り20秒でダメ押し点をあげ、みごとな〝逆転優勝〟を遂げた。

大経大にとっては、後半立ちあがりの乱れが、あまりにも大きな悔いを残すことになってしまった。

【大経】得		
GK	福井	0
FP	奥川	1
	津川	6
	穂積	6
	山本	1
	橋本	0
	二宮	0
	太田	0
	石井	0
	林	0
	塩川	0

【大体】得		
GK	宍倉	0
	神谷	0
FP	坂本	4
	中村	1
	白柳	0
	福永	0
	松尾	0
	山内	2
	野波	2
	丸井	7
	宇尾野	0
	藤田	0

（審・橋谷・山中）

16（4）7MT（1）14

優勝をかけた大体大—大経大戦，大経大の攻撃
（関西学連提供）

関西学生秋季（1部）

	体	経	産	同	阪	甲	京	P	得	失	差
①大体大	…	○	●	○	○	○	○	10	139	58	81
②大経大	●	…	○	○	○	○	○	10	143	78	65
③京産大	○	●	…	●	○	○	○	8	94	58	
③同志社	●	●	○	…	○	○	○	8	95	69	
⑤阪大	●	●	●	●	…	○	○	4	94	119	
⑥甲南	●	●	●	●	●	…	○	2	83	148	
⑦京大	●	●	●	●	●	●	…	0	41	159	

【2部順位】①近大5勝1敗②京都教大4勝1分1敗③関大・竜谷3勝3敗⑤桃山学院2勝1分3敗⑥立命館2勝4敗⑦大阪府立大1勝5敗

近大、立ちなおり優勝

▽2部

京都教大 20（10—9、10—10）19 近大

竜谷 16（7—6、9—7）13 立命館

関大 15（6—5、9—7）12 大阪府大

京都教大 20（8—8、12—5）13 竜谷

桃山学院 16（7—3、9—7）10 立命館

京都教大 14（6—5、8—7）12 立命館

近大 13（6—3、7—4）7 大阪府大

竜谷 17（8—10、9—6）16 桃山学院

関大 22（12—4、10—9）13 桃山学院

大阪府大 15（8—6、7—7）13 竜谷

近大 25（14—7、11—12）19 桃山学院

立命館 11（4—8、7—2）10 大阪府大

関大 21（9—9、12—11）20 京都教大

近大 21（11—6、10—8）14 立命館

立命館 16（8—2、8—6）8 関大

近大 24（14—5、10—8）13 竜谷

竜谷 16（9—6、7—7）13 関大

桃山学院 16（8—9、8—7）16 京都教大（引き分け）

桃山学院 16（7—6、9—8）14 大阪府大

京都教大 19（10—2、9—8）10 大阪府大

近大 23（9—6、14—8）14 関大

追手門学院が3度目

▽3部

神戸大 22—10 大阪薬大

追手門学院 31—9 大阪工大

神戸大 27—4 天理

大阪薬大 没収試合 関学

（注）関学がエントリー外選手を起用したため没収試合とされた。

天理 36—19 大阪市大

追手門学院 20—14 神戸大

大阪工大 棄権 大阪薬大

関学 20—15 天理

追手門学院 21—19 大阪市大

大阪市大 19—16 大阪薬大

関学 22—6 追手門学院

天理 22—16 大阪工大

神戸大 20—12 大阪市大

追手門学院 26—6 大阪歯大

神戸大 23—15 大阪工大

関学 13—12 大阪市大

天理 23—16 大阪歯大

関学 18—13 大阪工大

追手門学院 21—15 天理

大阪市大 18—10 大阪工大

神戸大 8—8 関学（引き分け）

［3部順位］①追手門学院5勝1敗②神戸大4勝1分1敗（得失点差35）③関学4勝1分1敗（15）④天理3勝3敗⑤大阪市大2勝4敗⑥大阪工大1勝5敗（マイナス37）大⑦大阪歯大1勝5敗（マイナス42）

大阪薬大、幸運の初優勝

▽4部

和歌山大 19—12 大阪薬大

大阪教大 20—9 大阪外語大

大阪教大 20−14 関西外語大
関西外語大 20−11 大阪外語大
大阪薬大 15−10 大阪教大
和歌山大 16−9 関西外語大
大阪薬大 25−3 大阪外語大
和歌山大 24−11 大阪外語大
大阪薬大 16−8 関西外語大
大阪教大 13−12 和歌山大

【順位】①大阪薬大3勝1敗（得失点差28）②和歌山大3勝1敗（25）③大阪教大3勝1敗（13）④関西外語大1勝3敗⑤大阪外語大4敗

新加盟の神戸商船快調

▽5部
京都工繊大22−18 奈良教大
姫路工大 16−12 京都工繊大
神戸商船 25−13 奈良教大
神戸商船 18−14 京都工繊大
姫路工大 31−4 奈良教大
神戸商船 10−6 姫路工大

【順位】①神戸商船（新加盟）3戦全勝②姫路工大2勝1敗③京都工芸繊維大1勝2敗④奈良教大3敗


宿願の優勝を遂げ表彰をうける武庫川女子大。（関西学連提供）

武庫川女、みごとな初優勝

関西（女子）

◇10月7日〜10月28日◇大阪府立大学体育館ほか◇参加5校

大阪教大、大阪薬大はやや力不足だったが、あとの3校は伯仲、もつれた。

4連勝を狙う甲子園短大は、順当な試合ぶりで進んだが大体大戦は苦しみ、残り3分で4−6とリードされ危かった。しかし、みごとな粘りで引き分けにもちこんだ。

大体大は、すでに武庫川女に押しまくられており、これで優勝の望みが消えた。最終戦を前に武庫川女は3勝で得失点差19、甲子園は2勝1分で得失点差14。武庫川女は引き分けでも初の栄冠に輝やくというアドバンテージ。

しかし、さすがに甲子園は強味をみせ、後半7分福田で4−4のあと、16分木下がゲット、5−4とし、守備陣の好調からそのまま逃げ切るかにみえた。前半20分以降完封されていた武庫川女は22分30秒辻が最後の力をふりしぼるようにシュートを決め5−5。この1点で武庫川女は昭和45年秋復帰以来6シーズン目で優勝を飾った。みごとな抬頭ぶりといえよう。

大阪体大、甲子園短大で優勝を持ちまわっていたような関西女子学生界は、これで新しい幕を開けることになるのではなかろうか。

個人得点1位は12ゴールをあげた井上明美選手（武庫川女大、住吉学園出）に決まった。

甲子園短 8（2−2 6−0）2 大阪教大
大阪体大 23（10−0 13−0）0 大阪薬大
武庫川女 7（5−2 2−4）6 大阪教大
甲子園短 12（5−2 7−2）4 大阪薬大
大阪教大 8（2−2 6−2）4 大阪薬大

得	【教大】		【薬大】	得
0	市居	CK	藤田	0
			遠山	0
0	八木	FP	北川	3
0	松原		沢崎	1
1	山下		丸山	0
2	田中		上田	0
0	佐藤		香田	0
0	大柳		上野	0
3	山本		嶋本	0
0	橋本		岡田	0
2	牧野			
0	滝川			

8（0）7MT（0）4

武庫川女 8（3−2 5−1）3 大阪体大

得	【武庫】		【大体】	得
0	榎本	GK	梅谷	0
0	古田		堀川登	0
1	橋本	FP（審・伊谷、橋谷）	堀川景	0
0	三輪		樋口	0
1	中川		山本	0
0	倉		高木	1
3	寺尾		大谷	0
0	辻		松本	0
0	赤尾		奥野	0
0	中塚		金森	1
3	井上		高市	0
0	山本		周防	1

8（1）7MT（1）3

武庫川女 14（5−0 9−1）1 大阪薬大
甲子園短 6（2−3 4−3）6 大阪体大　引き分け

得	【甲子】		【体大】	得
0	田中	GK	堀川	0
			梅谷	0
1	平山	FP（審・藤本、福井）	山本	1
0	木下		堀川景	0
0	竹内		高木	2
4	太田		大谷	0
0	福田		金森	2
1	飛嶋		松本	0
0	大音師		周防	0
			奥野	1
			高市	0
			平山	0

6（0）7MT（2）6

大阪体大 13（9−1 4−1）2 大阪教大
武庫川女 5（4−3 1−2）5 甲子園短

【順位】①武庫川女大3勝1分②甲子園短大2勝2分③大阪体大2勝1分1敗④大阪教大1勝3敗⑤大阪薬科大4敗

得	【武庫】		【甲子】	得
0	榎本	GK	田中	0
0	吉田			
0	橋本	FP（審・伊谷、平井）	平田	0
0	三輪		木下	3
1	中川		竹内	0
0	倉		太田	0
1	寺尾		福田	1
1	辻		飛嶋	1
0	赤尾		大音師	0
0	中塚			
0	谷上			
2	井上			

5（0）7MT（0）5

近大復帰、京大落ちる

▼関西学生秋季男子各部入れ替え戦（11月・追手門学院体育館）

▽4〜5部
関西外語大（4部④）22−11 姫路工大（5部②）
神戸商船（5部①）17−9 大阪外語大（4部⑤）

▽3〜4部
和歌山大（4部②）14−11 大阪工大（3部⑥）
大阪薬大（4部①）20−14 大阪歯大（3部⑦）

▽2〜3部
立命館（2部⑥）20（12−5 8−8）13 神戸大（3部②）
追手門学院（3部①）18（9−6 9−7）13 大阪府大（2部⑦）

▽1〜2部
甲南（1部⑥）24（8−7 16−7）14 京都教大（2部②）
近大（2部①）16（8−3 8−6）9 京大（1部⑦）

本誌は1月には発刊いたしません。次号は2月1日発行です。御諒承下さい。

中京、今季も全勝優勝

東海

◇10月20日〜11月11日◇名古屋・天神山球技場ほか◇1部6校、2部9校

1部は今季も中京、名城の争い。第3日に対決した両者は春同様名城のリードで序盤が進み、後半6分までたえず先行。しかし中京は後半7分7MTで6−6の同点に追いついたあと夏日（全日本ジュニア）、成田らで一気に主導権を奪い20分には10−6とはなした。名城もこのあと田中、森、佐藤らで追いこんだが、中京も加点、結局押し切った。

中京はこのあとの試合も慎重に勝ちとり全勝、7シーズン連続27度目の優勝を飾った。2位は7シーズン連続して名城。

2部は参加9校を、3校づつ3組の第1次リーグを行ない、各組1位同士で優勝を争った結果、愛知大豊橋と三重大が1勝1分。得失点差で愛大豊橋がわずか1点差で上廻り41年春以来2度目の優勝を飾った。なお入替戦は名大が愛大豊橋を18−9で破った。

▽1部

中京 27（15−2 12−1）3 名大

名城大 26（19−9 7−8）8 岐阜大

南山 22（11−5 11−3）8 愛知教大

名城 27（17−1 10−3）4 愛知教大

南山 16（10−5 6−6）11 名大

中京 24（12−5 12−2）7 岐阜大

岐阜大 16（10−7 6−4）11 南山

愛知教大 19（11−5 8−8）13 名大

中京 12（7−4 5−5）9 名城

【名城】	得		【中京】	得
高橋	0	GK	福井	0
木村	0			
松井	0	FP	小川	0
石塚	0		成田	2
森	1		夏日	3
長塚	0		梶村	3
江崎	2		木木	0
佐藤	1		布垣	3
田中	2		岸見	0
山本	2		佐藤	0
杉山	1		三宅	1
岩田	0		村上	0

（審・岩見 松井）

12（3）7MT（2）9

中京 31（16−5 15−3）8 愛知教大

名大 17（7−6 10−7）13 岐阜大

名城 18（9−5 9−4）9 南山

愛知教大 11（8−6 3−2）8 岐阜大

名城 18（10−4 8−4）8 名大

中京 18（8−6 10−2）8 南山

【順位】①中京5戦全勝②名城4勝1敗③南山・愛知教大2勝3敗⑤岐阜大1勝4敗（得失点差マイナス37）⑥名大1勝4敗（マイナス51）

▽2部第1次リーグA組

中部工大 13−9 名古屋学院

滋賀大 33−17 名古屋学院

滋賀大 18−10 中部工大

▽同B組

愛大名古屋不戦勝 愛知工大

三重大 15−11 愛大名古屋

三重大 不戦勝 愛知工大

▽同C組

愛大豊橋 18−15 静岡大

静岡大 21−10 名古屋工大

愛大豊橋 14−8 名古屋工大

▽同1〜3位決定リーグ

愛大豊橋 14（8−3 6−4）7 滋賀大

滋賀大 17（8−2 9−6）8 三重大

愛大豊橋 13（7−7 6−6）13 三重大 引き分け

▽同4〜6位決定リーグ

静岡大 17−8 中部工大

中部工大 13（分）13 愛大名古屋

静岡大 15−14 愛大名古屋

▽同7〜9位決定リーグ

名古屋工大 18−13 名古屋学院

名古屋学院不戦勝 愛知工大

名古屋工大不戦勝 愛知工大

【最終順位】①愛知大豊橋②滋賀大③三重大④静岡大⑤愛知大名古屋⑥中部工大⑦名古屋工大⑧名古屋学院⑨愛知工大

中京、混戦を抜け出る

東海（女子）

◇10月20日〜11月11日◇名城大グランドほか◇参加4校

4校2回総当り。優勝がもちこまれた第2次リーグは中京が無キズで進んだのに対し、中京女は復調の岐阜大に敗れ一歩退いた。最終日の中京×中京女は、中京が地力勝ち、4シーズン連続14度目の優勝を遂げた。

中京 13（8−3 5−2）5 愛知教大

岐阜大 6（3−3 3−3）6 中京女 引き分け

中京 6（1−2 5−2）4 岐阜大

愛知教大 8（4−6 4−2）8 中京女 引き分け

中京女 6（3−3 3−1）4 中京

岐阜大 7（5−3 2−3）6 愛知教大

中京 12（6−4 6−2）6 岐阜大

中京女 5（1−0 4−3）3 愛知教大

中京 9（5−3 4−2）5 愛知教大

岐阜大 10（4−0 6−3）3 中京女

中京 7（5−0 2−2）2 中京女

岐阜大 6（5−3 1−1）4 愛知教大

【順位】①中京5勝1敗②岐阜大3勝1分2敗③中京女2勝2分2敗④愛知教大1分5敗

九州産大、圧倒の攻守

福岡県学生秋季戦

第7回福岡県学生秋季リーグは10月27、28、11月3日の3日間、東海大体育館に1部5、2部4校が参加して行なわれ、九州産大がバランスのとれた攻守で他校を圧倒4戦全勝で優勝を飾った。

▽1部

福岡大 12（8−1 4−3）4 東海
福岡教大 5（1−4 4−0）4 西南学院
福岡教大 6（3−5 3−1）6 東海
引き分け
九州産大 12（4−5 8−2）7 西南学院
福岡教大 11（6−4 5−3）7 福岡大
西南学院 9（5−2 4−4）6 東海
九州産大 11（6−5 5−1）6 福岡大
九州産大 15（8−3 7−4）7 東海
福岡大 12（6−4 6−5）9 西南学院
九州産大 19（8−7 11−3）10 福岡教大

【順位】①九州産大4戦全勝②福岡教大2勝1分1敗③福岡大2勝2敗④西南学院1勝3敗⑤東海1分3敗

▽2部

福岡工大 15−3 東和
九州大 5−4 九州工大
九州工大 17−7 東和
九州大 14−5 福岡工大
福岡工大 12−11 九州工大
九州大 14−4 東和

【順位】①九州大3戦全勝②福岡工大2勝1敗③九州工大1勝2敗④東和3敗

日大とどまる

▼関東学生秋季各部入れ替え戦・続報（10月）

▽2〜3部

東海（2部⑦）17（10−9 7−5）14 立教（3部②）

▽1〜2部

日大（1部⑦）21（13−6 8−9）15 東京教大（2部②）

（注）この他の試合は前号既報

世界選手権欧州予選（第2報）

◇第1群・第2戦

アイスランド 28（18−6 10−9）15 フランス

◇第2群・第1戦

ポーランド 20（12−9 8−4）13 オランダ
オランダ 16（10−4 6−7）11 スイス
スイス 17（10−7 7−10）17 ポーランド
引き分け

◇第3群・第1戦

ブルガリア 22（10−6 12−8）14 フィンランド

◇第4群・第1戦

デンマーク 24（14−3 10−5）8 ベルギー

（注）各グループとも3国2回のリーグ戦、年内に代表が決められる。

各地の記録

佐賀、全部門出揃う

若楠（わかくす）と別称も決まった佐賀国体（昭51）の開催を記念する県民体育大会ハンドボール競技が10月、佐賀東高球技場で行なわれ、中学（別掲）、高校、一般とも男女が勢揃い、佐賀協会にとっても特筆すべき大会となった。

▽一般男子1回戦（1試合）
佐商OB 19−13 佐農OB
▽同準決勝
佐賀教員 15−10 自衛隊
神埼ク 23−14 佐商OB
▽同決勝
神埼ク 24（12−11、9−10、…3−0、0−0）21 佐賀教員
▽同女子準決勝（＝1回戦）
神農OG 23−7 武雄ク
神埼ク 14−4 佐賀東OG
▽同決勝
神埼ク 13（8−3、5−6）9 神農OG
▽高校男子1回戦（1試合）
佐賀西 18−11 鹿実
▽同準決勝
佐賀商 16−4 神埼農
佐賀農 23−10 佐賀西
▽同決勝
佐賀商 12（6−5、6−5）10 佐賀農
▽同女子準決勝（＝1回戦）
佐賀女 12−3 嬉野商
神埼農 6−3 佐賀東
▽同決勝
神埼農 5（2−2、3−0）2 佐賀女

コンドルス、自衛隊勝田制す

▼第23回茨城県総合選手権（11月・麻生高）
▽男子準々決勝
コンドルズ 22−7 石岡一高
茨城大 17−11 石岡商高
麻生高 10−7 土浦工高
自衛隊勝田 不戦勝 日立製作所
▽同準決勝
コンドルス 24−8 茨城大
自衛隊勝田 15−7 麻生高
▽同3位決定戦
麻生高 9−8 茨城大
▽同決勝
コンドルス 17（9−5、8−8）13 自衛隊勝田
▽女子準々決勝
笠間高 6−4 麻生高
水海道二高 10−9 石岡商高
石岡二高 14−3 波崎高
結城二高 16−5 茨城大
▽同準決勝
水海道二高 8−7 笠間高
結城二高 7（延）5 石岡二高
▽同3位決定戦
笠間 10−7 石岡二高
▽同決勝
水海道二高 9（3−1、6−4）5 結城二高

青森ク、〃成年〃の地力

▼第13回青森県下総合室内選手権（11月・県立青森高）
▽男子決勝トーナメント1回戦（＝準決勝）
青森ク 20−11 県中央高校選抜
県南部高校選抜 17−12 上北ク
▽同決勝
青森ク 29（15−5、14−7）12 県南部高校選抜
▽女子1回戦（2試合）
青森高 5（分）5 野辺地高
7MTコンテストの結果、青森高の勝ち
三本木高 9−6 柏木農高
▽同準決勝
あすなろ 16−5 三本木高
青森西高 16−0 青森高
▽同決勝
あすなろ 5（3−2、2−1）3 青森西高

有磯、富山女せりあう

▼富山県秋季高校選手権（11月・二上工高）
▽男子準々決勝
伏木 14−3 高岡
二上工 20−7 富山
氷見 21−3 雄山
高岡高 13−12 日大高岡
▽同準決勝
二上工 11−9 伏木
▽同決勝
氷見 14−13 高岡高
氷見 11（7−5、4−4）9 二上工
▽女子1回戦（3試合）
富山女 8−4 小杉
有磯 5−4 富山北
高岡女 16−0 高岡
▽同準決勝
富山女 15−3 清光
有磯 6−5 高岡女
▽同決勝
有磯 7（5−3、2−3）6 富山女

一般は氷見ク勝つ

▼富山県一般男子秋季選手権（11月・二上工）
▽準決勝
氷見ク 15−14 富山大
想球会 13−9 二上OB
▽決勝
氷見ク 18（11−4、7−7）11 想球会

八幡工と彦根西快勝

▼第16回滋賀県秋季高校大会（11月・八幡商）
▽男子決勝トーナメント1回戦
彦根東 6−5 米原
八幡工 7−4 彦根工
▽同決勝
八幡工 10（5−2、5−2）4 彦根東
▽女子決勝トーナメント1回戦
安曇川（あどかわ）4−3 高島

京都ク全日本総合へ

全日本総合選手権出場をかけた全国社会人西地区代表決定戦は11月10日大阪・東淀川体育館で行なわれ京都クが勝った。
京都ク（近畿） 20（10−5、10−10）15 桜丘会（東海）

彦根西 9（延）7 守山女
▽同決勝
彦根西 6（4−0、2−1）1 安曇川

社会人は高島ク順当

▼第2回滋賀県秋季社会人選手権（11月・高島高）＝男子のみ
▽1回戦（3試合）
高島ク 28−13 今津自衛隊
滋賀教員 21−8 松下電工
大津自衛隊 15−8 I・B・M
▽準決勝
高島ク 18−14 滋賀教員
大津自衛隊 19−13 八幡工OB
▽決勝
高島ク 22（11−6、11−8）14 大津自衛隊

海自第4航空群が優勝

▼千葉県実業団秋季定期戦（11月・佐原市）＝順位のみ
【1部順位】①海上自衛隊第4航空群4戦全勝②三井石油3勝1敗③海上自衛隊3術校④丸善石油⑤海上自衛隊館山航空基地
【2部順位】①陸上自衛隊志津高射学校②住友千葉化学③日産石油化学④陸上自衛隊松戸教導隊⑤KKヤトロン⑥航空自衛隊峯岡基地

▼千葉県高校新人大会（11月・清水高）

▽男子準々決勝
鶴舞 14－8 清水
佐原 27－8 雪解沢
八千代 11－10 柏
明徳 13－5 我孫子

▽同準決勝
佐原 9－5 鶴舞
明徳 6－1 八千代

▽同決勝
佐原 12（5－5 7－4）9 明徳
佐原高は6年ぶり12度目の優勝

▽女子準々決勝
昭和学院 14－2 鶴舞
八千代 9－4 我孫子
明徳 12－5 小金
佐原女 17－7 佐原

▽同準決勝
昭和学院 13－1 八千代
佐原女 5－1 明徳

▽同決勝
昭和学院 6（4－0 2－1）1 佐原女
昭和学院は9連勝

▼宮城県高校新人大会（11月・塩釜高）

▽男子準々決勝
仙台商 18（延）17 塩釜
仙台 11－8 仙台三
宮城水産 14－13 祇園寺
仙台育英 17－6 古川工

▽同準決勝
宮城水産 13－11 仙台商
仙台育英 11－8 仙台

▽同決勝
仙台育英 9（6－5 3－3）8 宮城水産

▽女子準々決勝
宮城二女 5－2 古川商
宮城三女 7－6 一迫商
塩釜女 17－5 祇園寺
涌谷 4－2 古川女

▽同準決勝
宮城二女 9－1 塩釜女
涌谷 10－4 宮城三女

▽同決勝
涌谷 6（4－2 2－1）3 宮城二女

中学大会記録

◇広島・第22回県中学総体ハンドボール競技（10月・二河中）

▽男子準決勝
広島修道 7－2 呉長浜
呉二河 11－4 深安神辺

▽同決勝
広島修道 11－5 呉二河

▽女子決勝
深安加茂 18－0 福山鳳

◇大阪堺市・堺市総体ハンドボール競技（10月・浜寺中）

▽男子Aリーグ（決勝リーグ）
福泉南 9－4 浜寺
福泉 15－8 福泉南
福泉 7－4 浜寺

▽女子5・6位決定戦
福泉 7－3 陵西

▽同3・4位決定戦
浜寺B 9－3 陵南

▽同決勝
浜寺 7（1－1 6－3）4 福泉南

◇佐賀・第26回県民体育大会ハンドボール競技（10月・佐賀東高）

▽男子1回戦（2試合）
神埼B 19－2 白石B
有田 11－2 白石

▽同準決勝
成章 9－6 神埼B
神埼 21－7 有田

▽同決勝
神埼 16（8－1 8－0）1 成章

▽女子1回戦（1試合）
有田 21－1 神埼B

▽同決勝
神埼 10（5－2 5－4）6 有田

投書欄　明日への提言

国体、競技力向上の場に
レベルの低い一般クラブ

国体を普及の場に、あるいは底辺の場にといった論調が多くなってきているようだが、私は反対だ。日本協会は、なにをおいてもそのレベルアップに努めるべきであり、その主催、共催する大会はすべて競技力を向上させることにつながらなくてはいけない。底辺のために、国体を衣替えするなら、天皇杯、皇后杯争いをまず廃めてからにすべきである。

強い実業団が居るためクラブの道が閉ざされるなどとは考えが甘すぎよう。

かく云う小生は、クラブの一員だが、国体の一般男女の最近のレベルダウンはひどすぎると思う。（わざわざ佐原市まで出かけてみての実感）

数年前までの桜丘会や、現在でも氷見ク、AOK栃木、三春台ク、大阪イーグルス、スワロー兵庫、清商クなどうらやましいようなクラブもあるが実業団のせりあいがあってこそ、はじめて地元の人たちにハンドボールの真ずいを見せることができる状態ではないか。

日曜や祭日に、それも月せいぜい1回程度集るチームの全国大会など必要はない。国体は、旅費なども公共体から出るのだし、台所の苦しい日本協会はせい一杯、トップレベルの向上に利用すべし。

クラブの生き甲斐のためにはサッカーの全日本選手権オープン化程度の施策で結構である。

【東京・大門　亘・31歳】

★編集後記

▽……サトウ・ハチローさんが亡くなられ、大あわてで資料をさがしましたが、氏が日本協会の理事長をつとめられたという記録は、協会には一片もありませんでした。やっと探しあてた〝公式記録〟は「朝日運動年鑑昭和23年版265頁」。

▽……以前から日本ハンドボール史の発掘をしておかなくてはと、外山准二（東京協会副会長）、的場益雄（全日本教職員連副会長）両先輩や藤本前編集長と話していたのですが、本格的に始めないと、これから先、つれに醜態をさらけだすことになってしまうでしょう。

▽……全日本女子が旅立ちました。7人の連続出場組の余裕と初参加5人の緊張。いいチームだと思います。出発の夜の羽田は女子実業団の各チームが見送りに集まり、賑やかこの上なく、不過（?）の女子に、再び活気が甦えった印象を強めました。前哨戦もまずまずのようで本番での朗報を待ちたいものです。

▽……正月は慣例により休刊、次号は2月1日発行です。今年最後のお願い――本誌への寄稿（記録以外）は必ずタテ書きにして下さい。（杉）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一一五号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十八年十一月二十五日印刷 昭和四十八年十二月 一 日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一-一-一
電話 大代表(代)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価 二百円(年間購読料千八百円)